

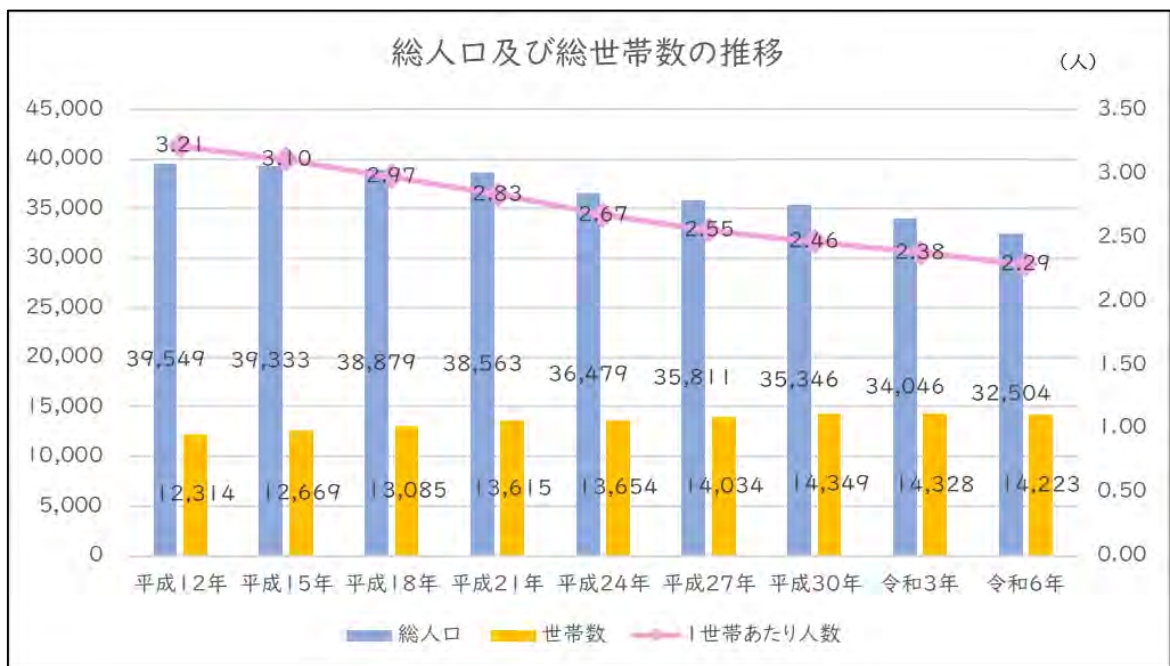
第2章 相馬市の現状と課題

1 相馬市を取り巻く現状等

(1) 人口・世帯の状況

① 総人口及び総世帯数の推移

本市の総人口は年々減少しており、令和6年には32,504人となっています。世帯数は増加傾向にあり、令和6年には14,223世帯となっています。また、1世帯あたりの人数は減少しており、核家族化が進んでいます。

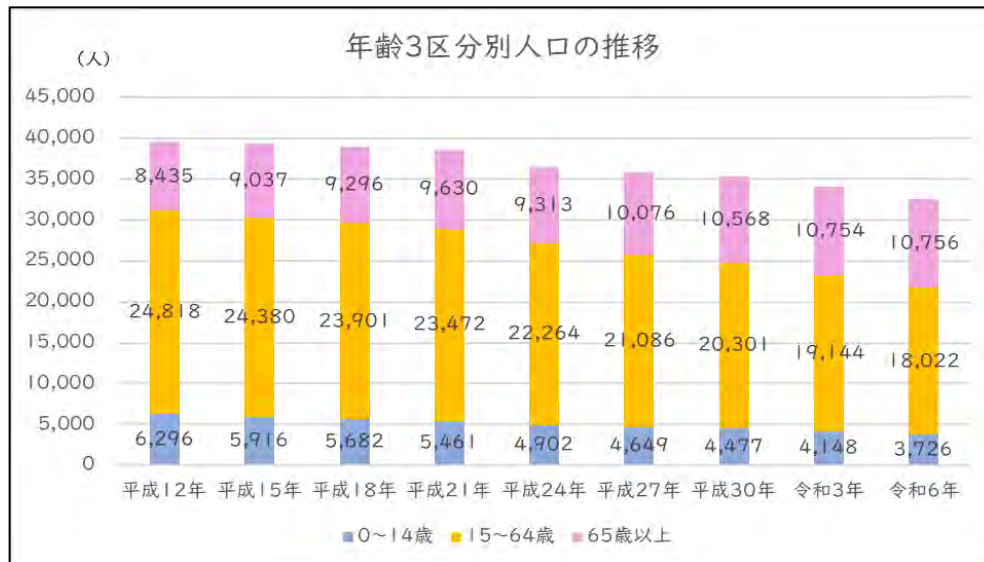


資料：相馬市住民基本台帳（各年4月1日現在）

第2章 相馬市の現状と課題

② 年齢3区分別人口の推移

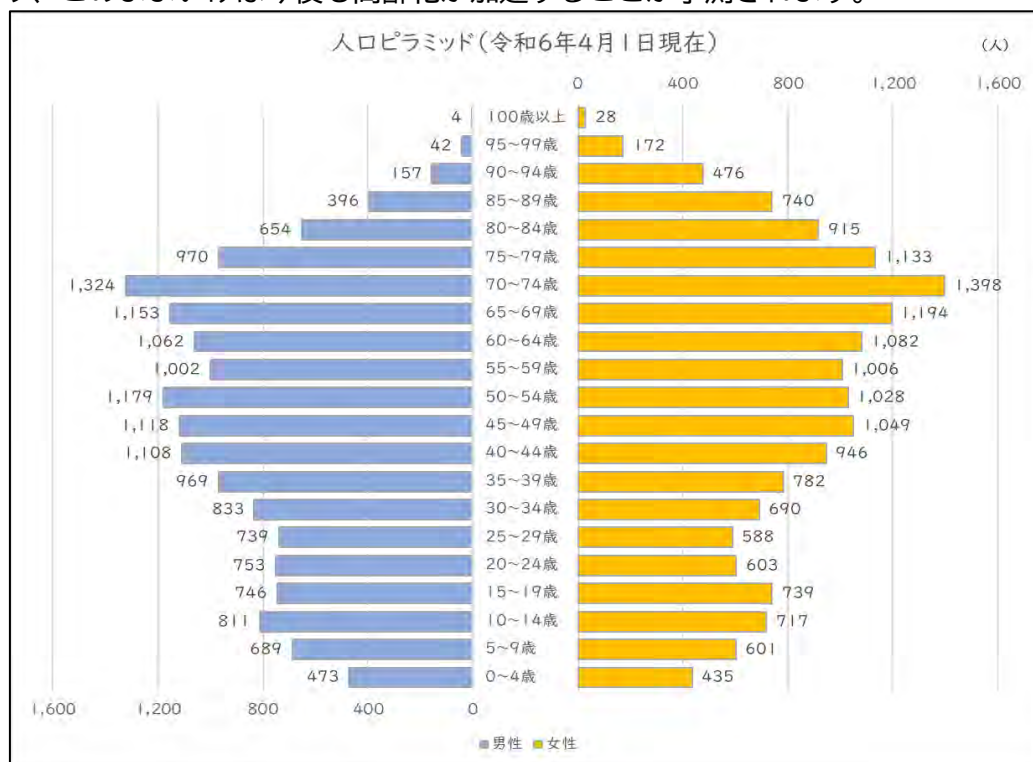
年齢3区分別の人口の推移は年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）が減少傾向にあるのに対し、老年人口（65歳以上）が増加傾向にあります。平成12年と比較すると、令和6年は年少人口が40.8%、生産年齢人口が27.3%減少している一方で、老年人口は27.5%増加しており、今後さらに少子高齢化が進むことが予測されます。



資料：相馬市住民基本台帳（各年4月1日現在）

③ 人口ピラミッド

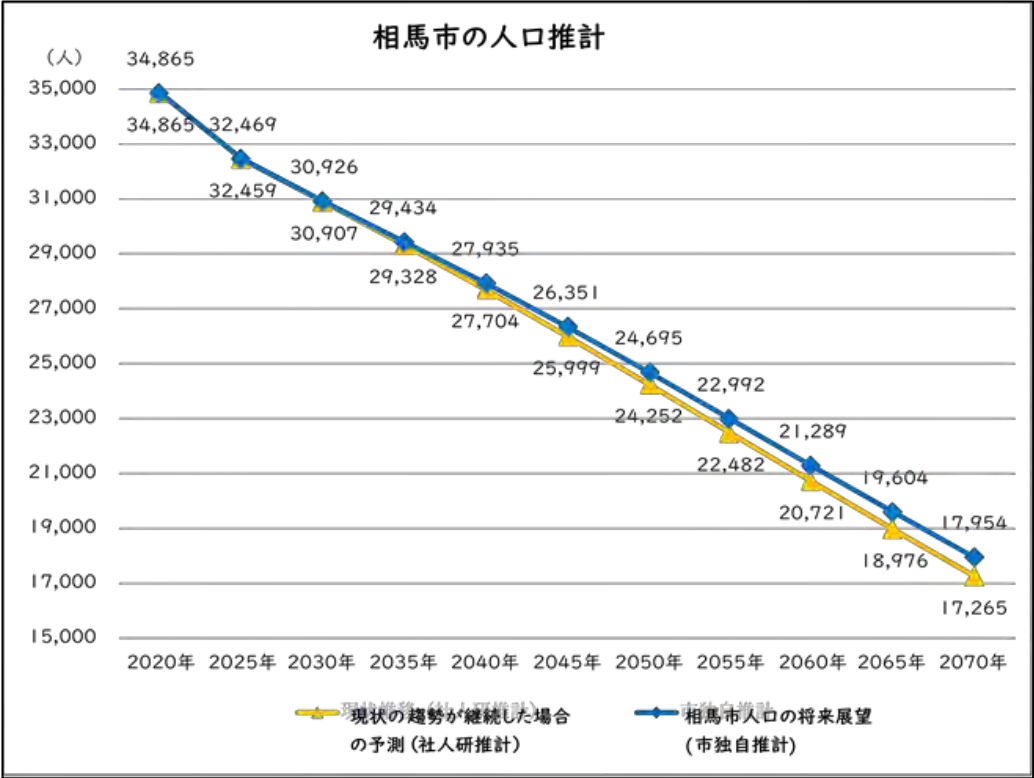
令和6年4月1日時点での人口ピラミッドを見ると、男女共に70～74歳の人口が最も多いことが分かります。また、30代以下の若い世代の構成人員が少なくなっており、このままいけば今後も高齢化が加速することが予測されます。



資料：住民基本台帳

④ 人口推計

本市の人口推計では、人口は年々減少が予測され、2050年には25,000人を下回ることが見込まれています。



【人口推計にあたっての条件】

推計方法	自然増減数及び社会増減数の各数値を設定して推計
出 生	2040（令和22）年に福島県民の「希望出生率」1.51を達成 2040年以降は1.51を維持
死 亡	国立社会保障・人口問題研究所推計の年齢階級別生存率を用い推計
転入・転出	2030（令和12）年に社会動態±0（ゼロ）を達成 2030年以降は±0（ゼロ）を維持

資料：相馬市人口ビジョン

※人口推計は、令和7年3月策定の相馬市人口ビジョン（第3.0版）の情報に基づいています。

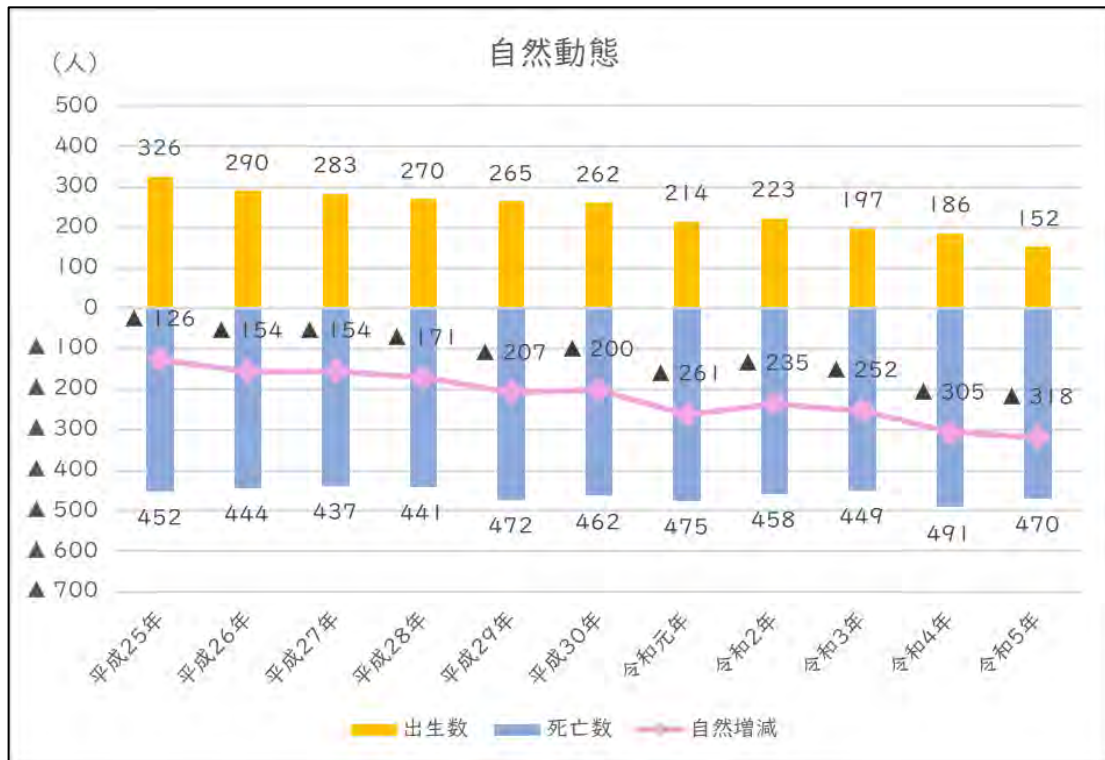
⑤ 自然動態・社会動態

自然動態について、出生数と死亡数の推移をみると、死亡数が出生数を上回り、令和4年の自然増減は307人となっています。また、死亡数は減少と増加を繰り返しているのに対し、出生数は減少傾向にあります。

社会動態について、転入数と転出数の推移をみると、年によって推移にばらつきがあるものの、平成29年以降は転出が多くマイナスが続いています。

自然動態・社会動態ともにマイナス傾向にあり、今後も継続的な人口減少が懸念されます。

第2章 相馬市の現状と課題



※出生率、死亡率、自然増加率は人口千対

資料：福島県人口動態統計の概況

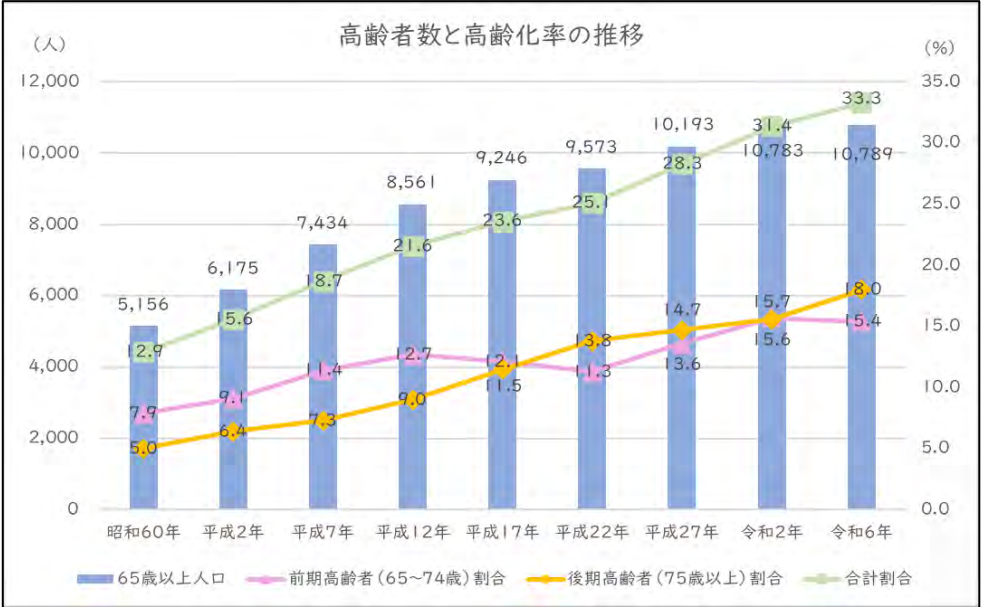


資料：福島県現住人口調査年報

(2) 高齢者福祉の現状

① 高齢者数と高齢化率の推移

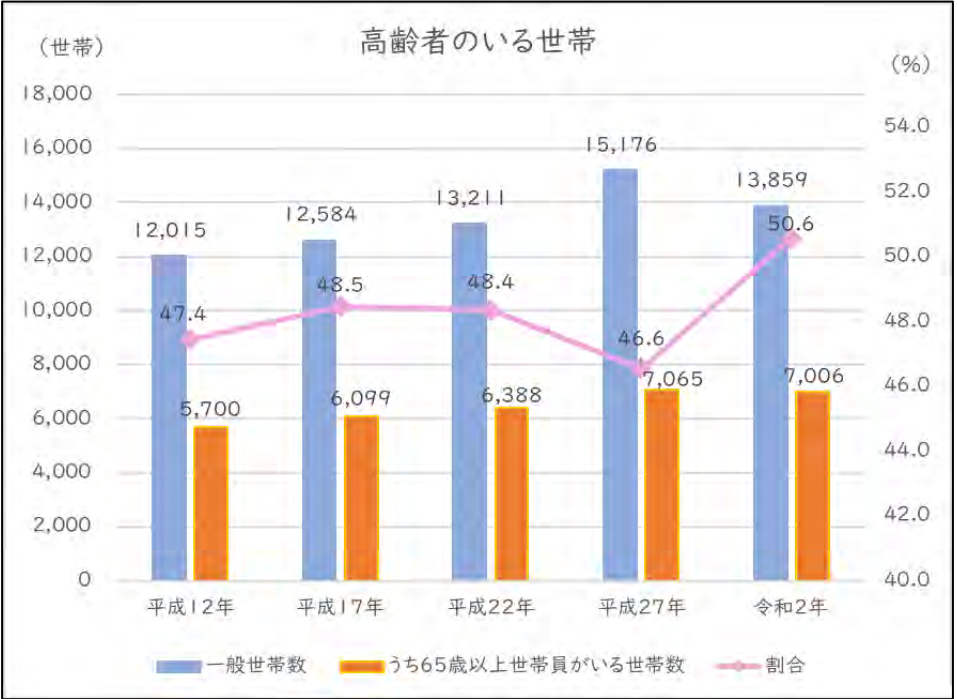
本市の高齢者数は増加傾向にあり、総人口に占める前期高齢者（65～74歳）の割合及び後期高齢者（75歳以上）の割合も年々増加傾向にあります。昭和60年には後期高齢者の割合が前期高齢者の割合を下回っていましたが、令和6年は後期高齢者の割合が前期高齢者の割合を上回っております。



資料：相馬市住民基本台帳（各年10月1日現在）

② 高齢者のいる世帯

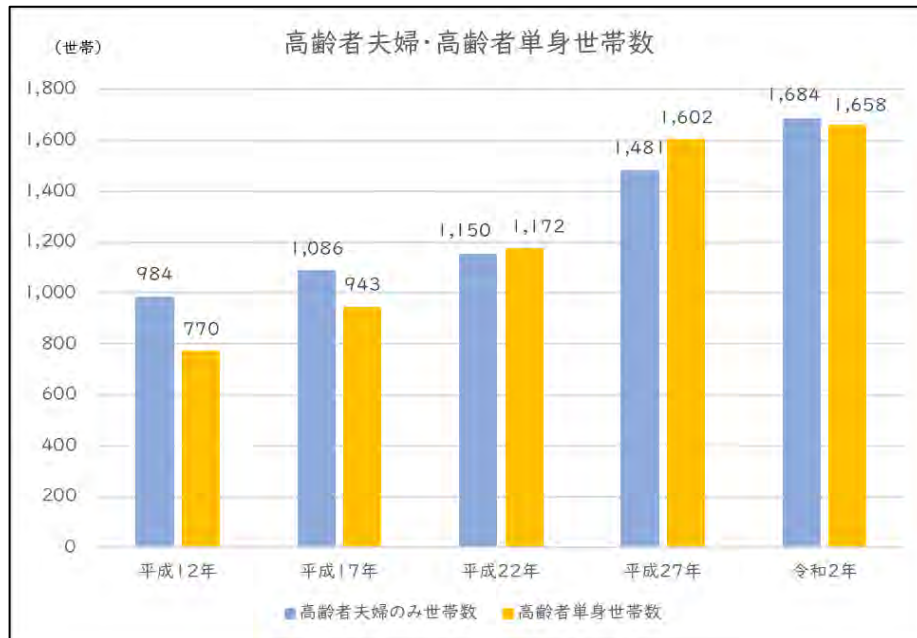
一般世帯数のうち高齢者（65歳以上の方）がいる世帯数は増加傾向にあります。高齢者がいる世帯数の割合を見ると、平成12年は約47.4%であったのに対し、令和2年には約50.6%に増加しています。



資料：国勢調査

③ 高齢者夫婦数・高齢者単身世帯数

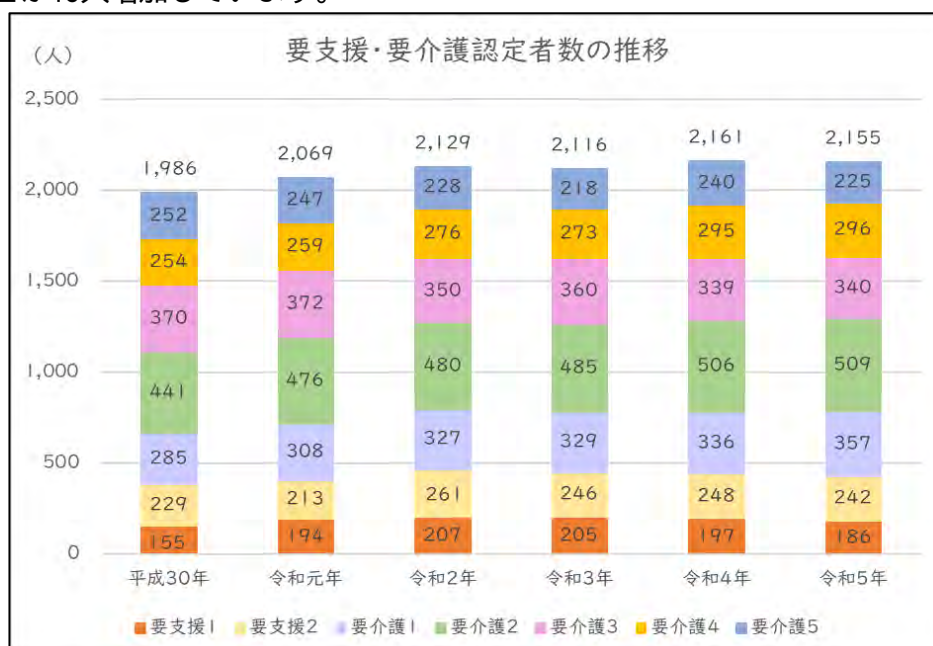
高齢者夫婦のみの世帯数及び高齢者単身世帯は年々増加しており、平成12年にはどちらも1,000世帯未満であったのに対し、令和2年はどちらも1,600世帯を超えています。特に高齢者単身世帯数は令和2年には平成12年の215.3%に増加しています。



資料：国勢調査

④ 要支援・要介護認定者数の推移

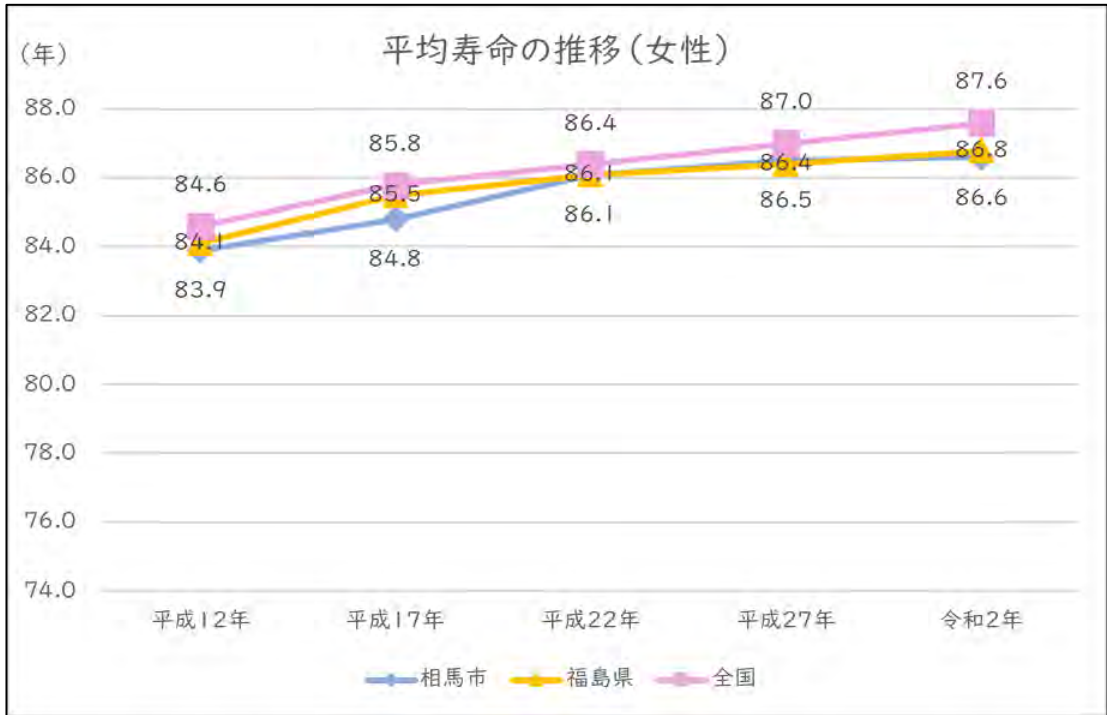
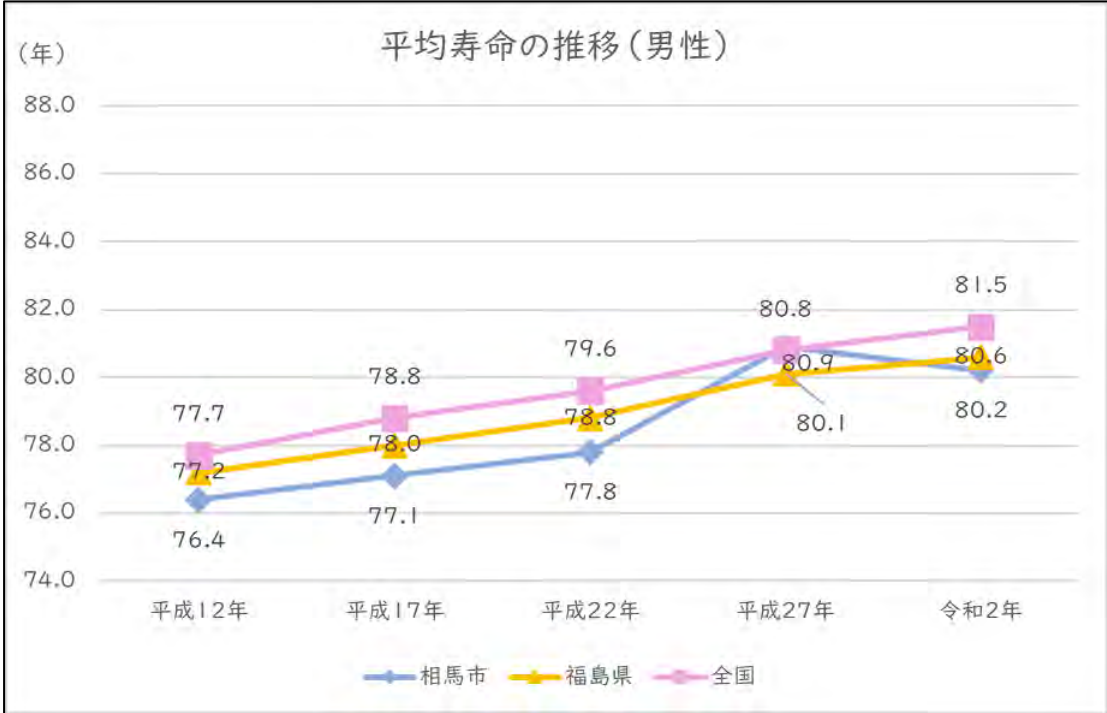
要支援・要介護認定者数を要介護度別に見ると、令和5年は要介護2が509人と最も多く、次いで要介護1が357人、要介護3が340人、要介護4が296人と続いています。一方、平成30年と令和5年を比較すると、要介護3が30人、要介護5が27人減少しているのに対し、要介護1が72人、要介護2が68人、要介護4が40人、要支援1が31人、要支援2が13人増加しています。



資料：地域包括ケア「見える化」システム（各年10月1日現在）

⑤ 平均寿命の推移

本市の平均寿命の推移を見ると、平成12年と比較し令和2年には男性は3.8歳、女性は2.7歳伸びているものの、男女共に全国平均及び福島県平均を下回っています。

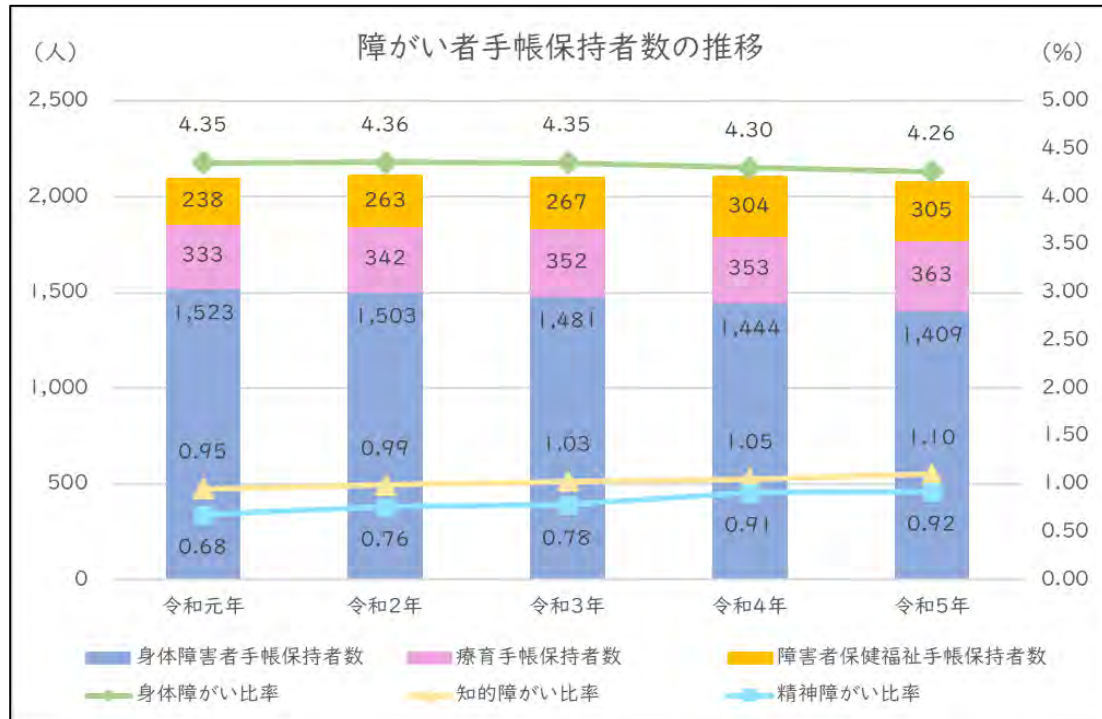


資料：厚生労働省 市区町村別生命表

(3) 障がい者福祉の現状

① 障がい者手帳所持者数の推移

本市の障がい者手帳所持者数の推移を見ると、身体障害者手帳保持者数は減少傾向にあるのに対し、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳保持者数は増加傾向にあります。一方で、身体障がい比率は知的障がい及び精神障がい比率と比べ高い値を維持しています。



資料：福島県障がい者総合福祉センター、福島県精神保健福祉センター
(相馬市社会福祉課)

(4) こどもを取り巻く現状

① 児童数の推移

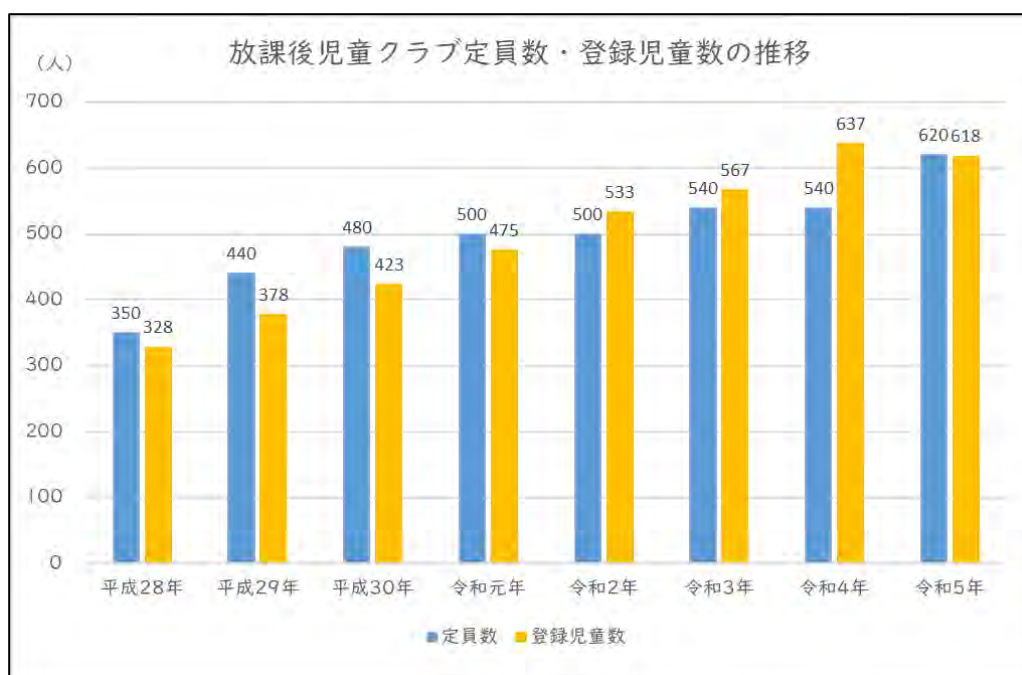
児童数（18歳未満人口）は年々減少しており、平成12年には7,926人であったのに対し、令和6年は4,656人となっています。減少率は約41.3%と大幅に減少しており、今後もさらに少子化が進むことが予想されます。



資料：相馬市住民基本台帳（各年4月1日現在）

② 放課後児童クラブ定員数・登録児童数の推移

放課後児童クラブ定員数及び登録児童数は、平成28年はそれぞれ350人、328人であったのに対し、令和5年は620人、618人になっています。放課後児童クラブの新設や改築等により定員数は大幅に増加しています。

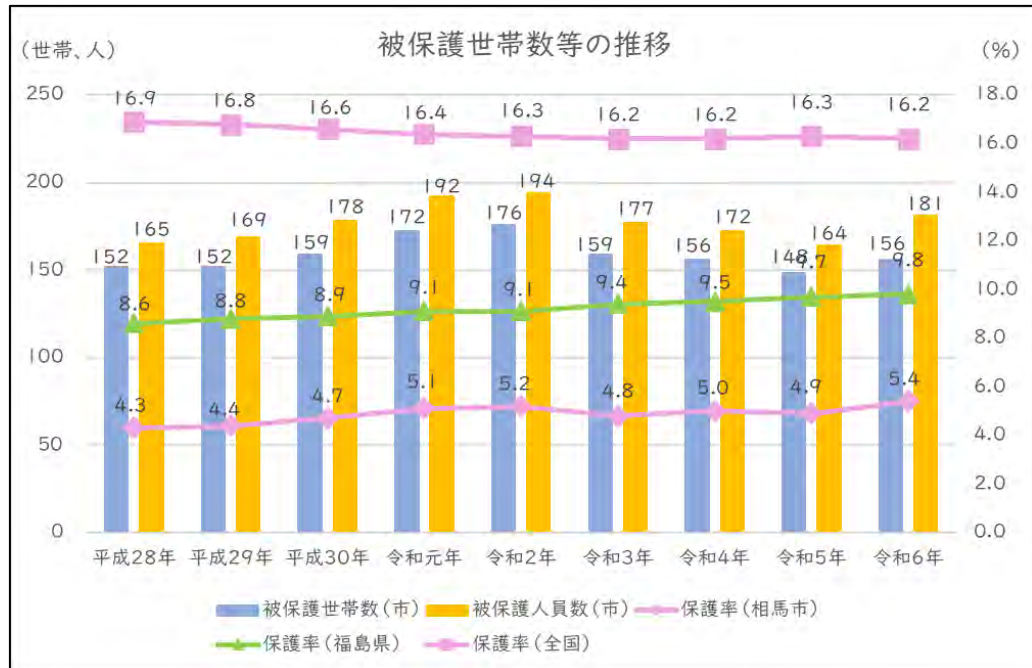


資料：相馬市こども家庭課

(5) 生活保護の現状

① 被保護世帯数等の推移

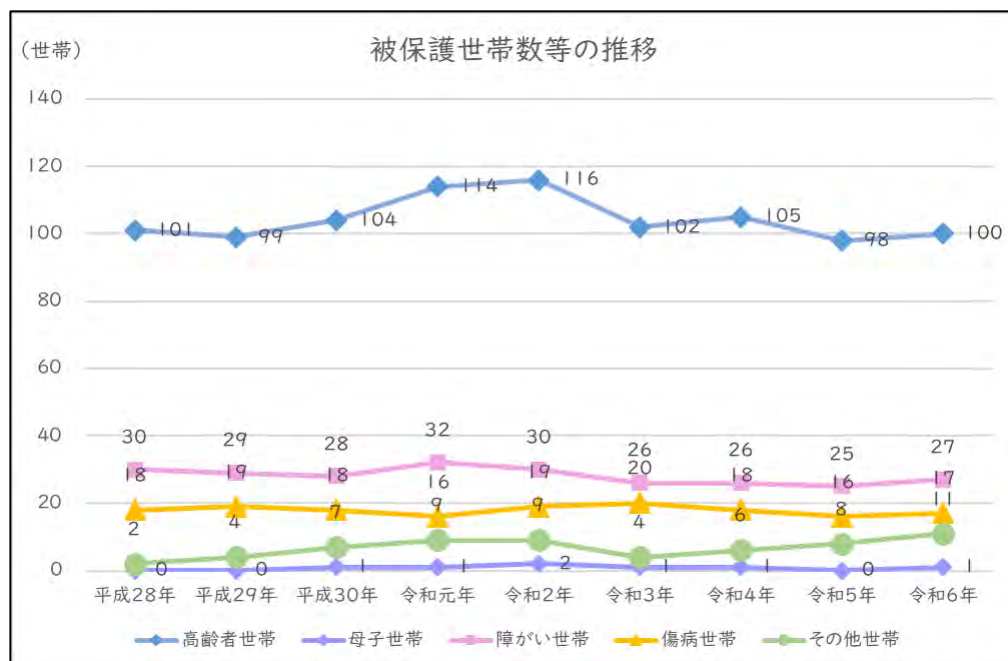
本市の被保護世帯数及び被保護人員数は令和2年をピークに減少傾向にありましたが、令和6年は再び増加し、人口1,000人あたりに対する保護率はほぼ横ばいで推移しています。



資料：相馬市社会福祉課（各年1月時点）

② 被保護世帯数（世帯類型別）の推移

被保護世帯数を世帯類型別に見ると、どの年も高齢者世帯が最も多く、次いで障がい世帯、傷病世帯となっています。どの世帯類型も世帯数はほぼ横ばいの状況で推移しています。



資料：相馬市社会福祉課（各年1月時点）

(6) 地域を取り巻く現状

① 行政区加入率等の推移

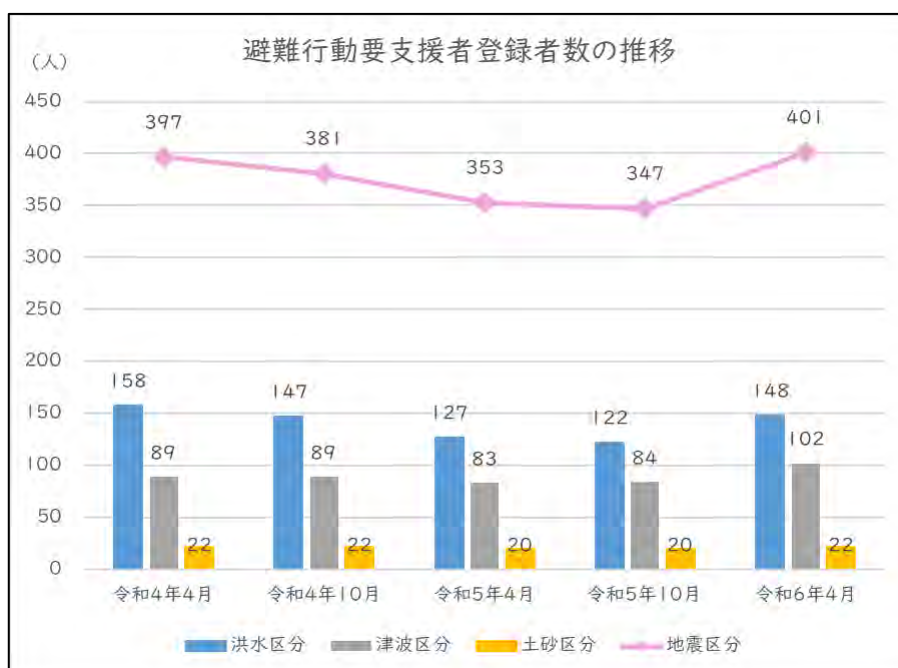
本市の行政区加入率は平成29年の73.06%をピークに年々減少しており、令和6年は67.91%まで減少しています。行政区加入率の減少は地域の助け合いや協力体制の希薄化に繋がるため、改善に向けた取組が求められます。



資料：相馬市総務課

② 避難行動要支援者登録者数の推移

避難行動要支援者登録者数は増加しています。避難行動要支援者の把握は災害発生時の的確な避難につながり、登録推進が求められています。

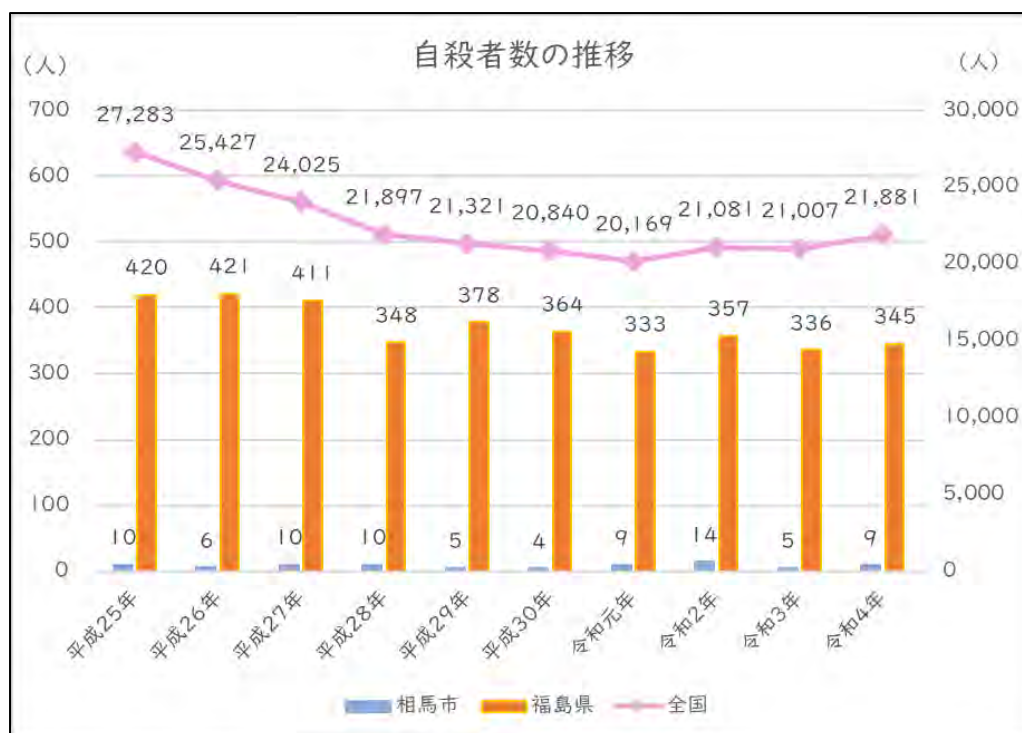


※地震区分は全員が登録、居住地域により区分の重複あり

資料：相馬市社会福祉課

③ 自殺者数の推移

本市の自殺者数は令和2年の14人をピークに、令和4年は9人となっています。元気に自立した生活を送るために、身体だけでなく心の健康の維持も重要であり、メンタルヘルス等の自殺予防対策の推進が求められます。



資料：福島県人口動態統計の概況、警察庁

2 統計資料・アンケート調査等からみる地域の傾向と課題

(1) アンケート調査の概要

① 調査の目的

市民の福祉や地域に対する考え方や生活、地域活動・ボランティア活動の状況などを把握し、計画策定の基礎資料を得ることを目的にアンケート調査を実施した。

② 調査対象

相馬市在住の18歳以上の市民から無作為に抽出した2,000人

③ 調査期間

令和6年6月27日～令和6年7月26日

④ 回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
2,000 件	849 件	42.5%

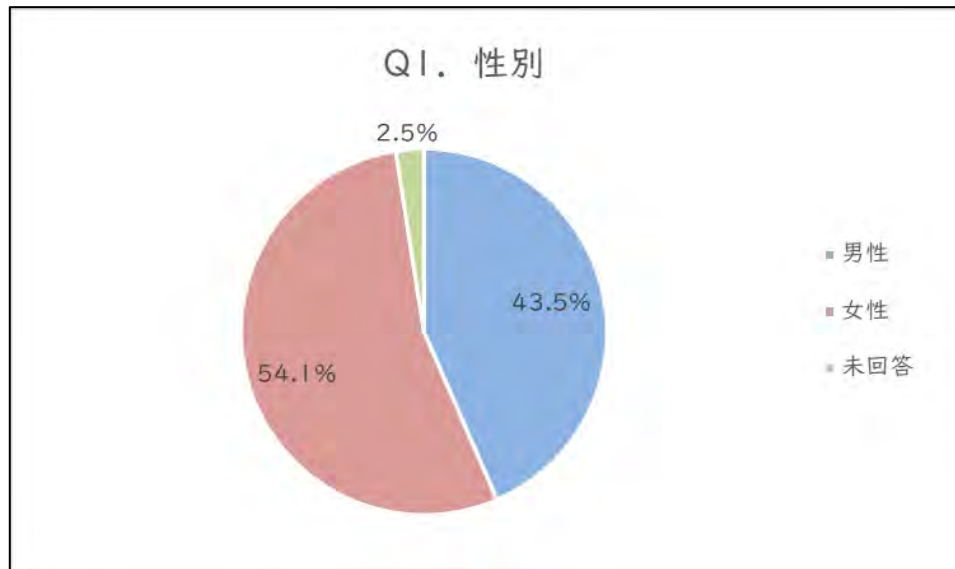
⑤ 調査結果

- ・調査結果は、小数点以下第2位を四捨五入して、それぞれの割合を示しています。このため、比率が0.05未満の場合には0.0と表記しています。また、合計が100.0%とならない場合があります。
- ・複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問については、合計が100.0%を超える場合があります。
- ・グラフ及び表の「n=〇〇」という表記は、その設問の有効回答者数で、比率算出の基礎となります。
- ・文章やグラフにおいて、設問や選択肢の一部を省略している場合があります。

□あなたご自身について

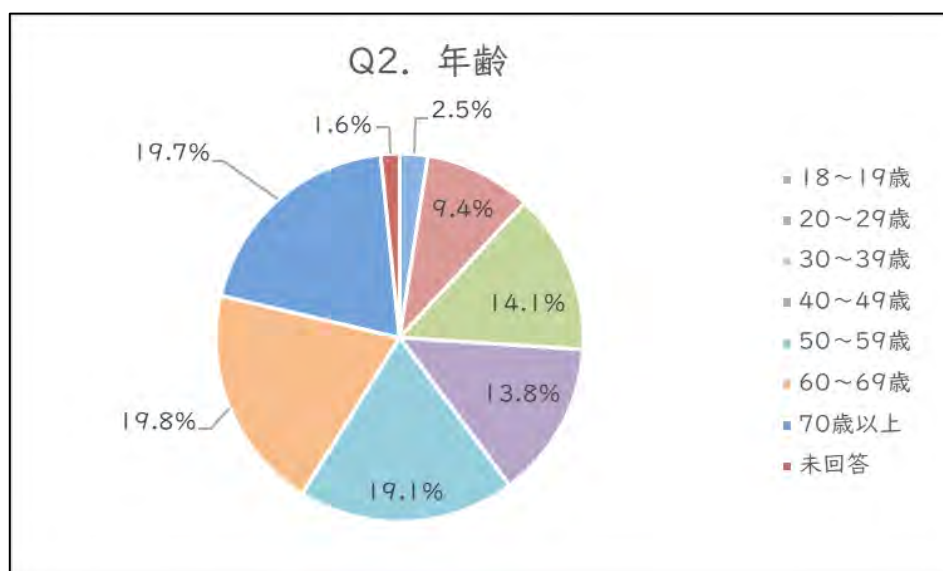
問1 あなたの性別をお答えください。(1つ)

性別は、「男性」が43.5%、「女性」が54.1%となっており、「男性」より「女性」の方が高くなっています。



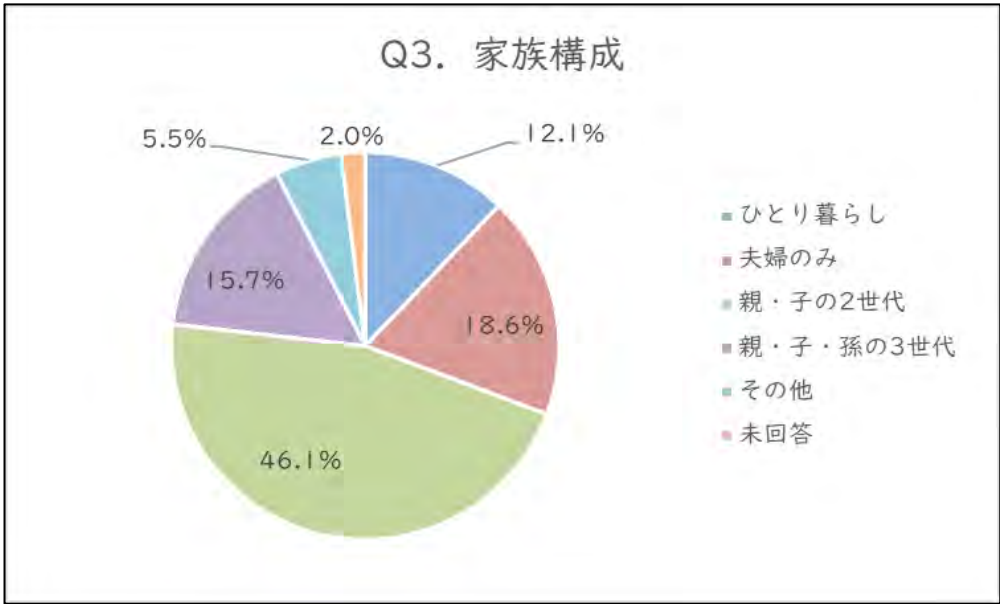
問2 あなたの年齢（令和6年6月1日現在）をお答えください。(1つ)

年齢は、「60～69歳」が19.8%と最も高く、次に「70歳以上」が19.7%、「50～59歳」が19.1%、「30～39歳」が14.1%となっています。50代以上が半数以上を占めており、年齢層は高くなっています。



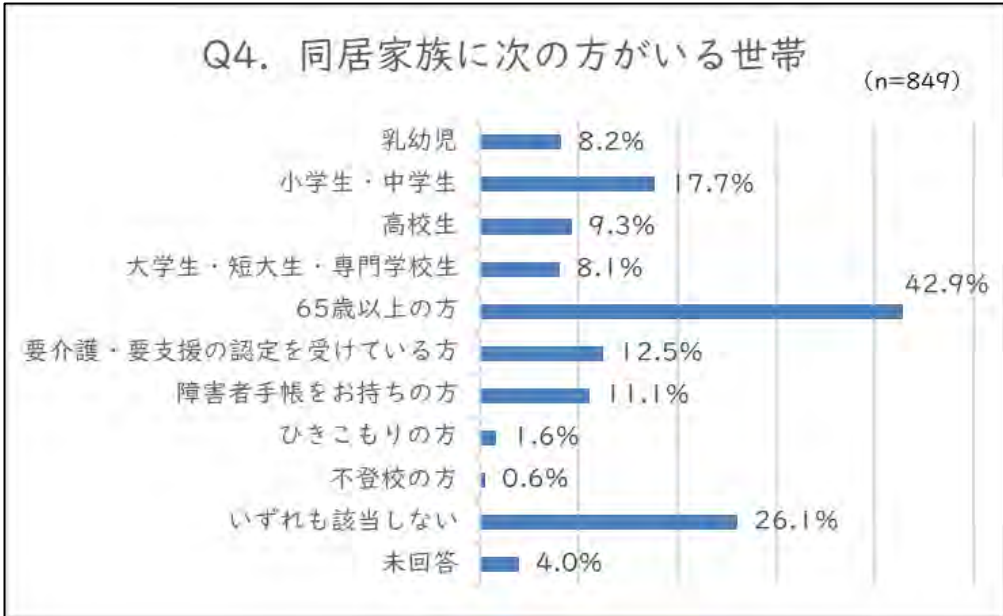
問3 あなたの同居の家族構成をお答えください。(1つ)

家族構成は、「親・子の2世代」が46.1%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が18.6%、「親・子・孫の3世代」が15.7%となっています。



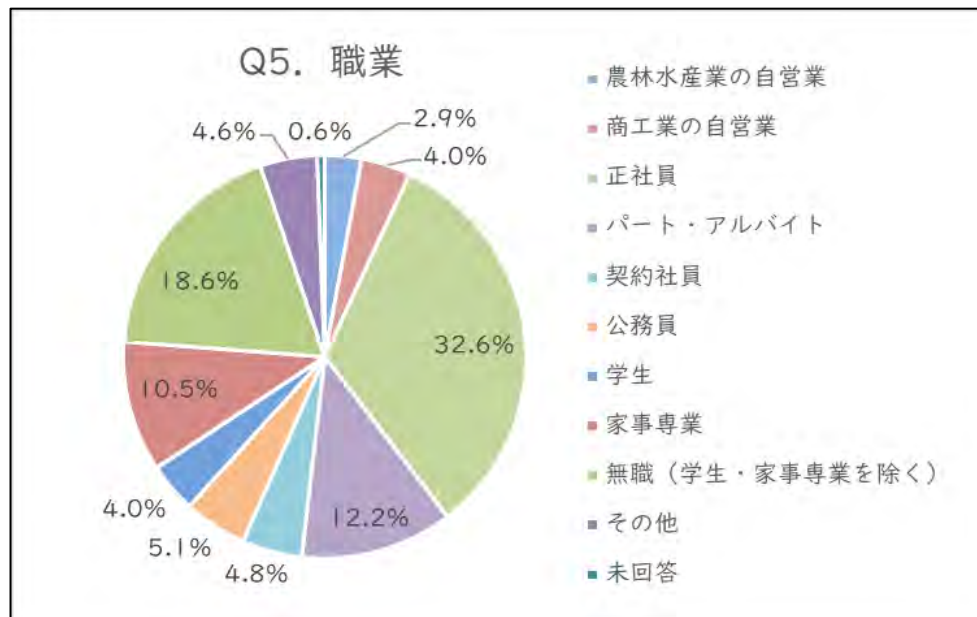
問4 あなた自身も含め、同居のご家族の中に、次のような方はいますか。
(あてはまるものすべて)

「65歳以上の方」が42.9%と最も高く、次いで「いずれも該当しない」が26.1%、「小学生・中学生」が17.7%となっています。



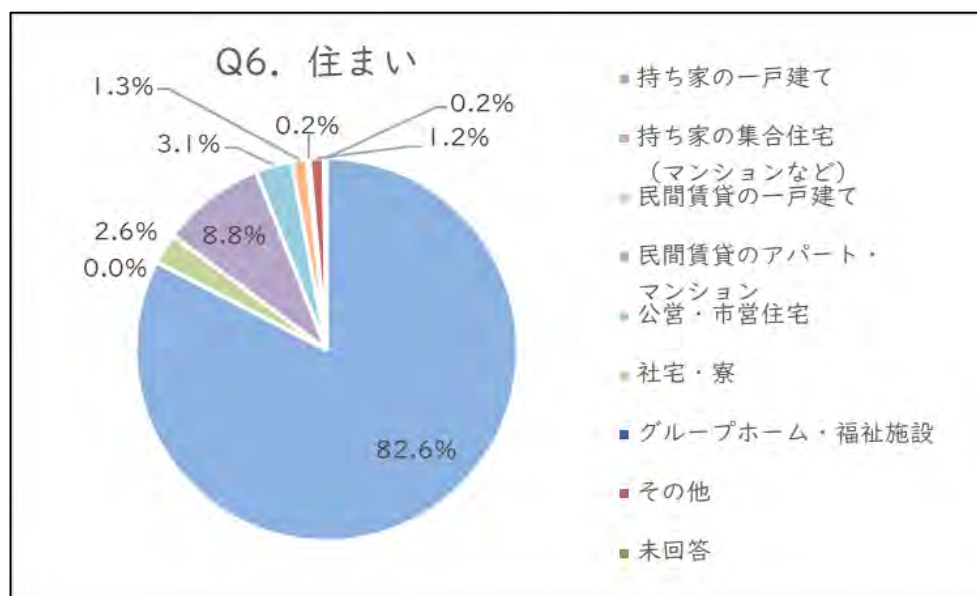
問5 あなたの主なご職業をお答えください。(1つ)

主な職業は、「正社員」が32.6%と最も高く、次いで「無職（学生・家事専業を除く）」が18.6%、「パート・アルバイト」が12.2%となっています。



問6 あなたのお住まいをお答えください。(1つ)

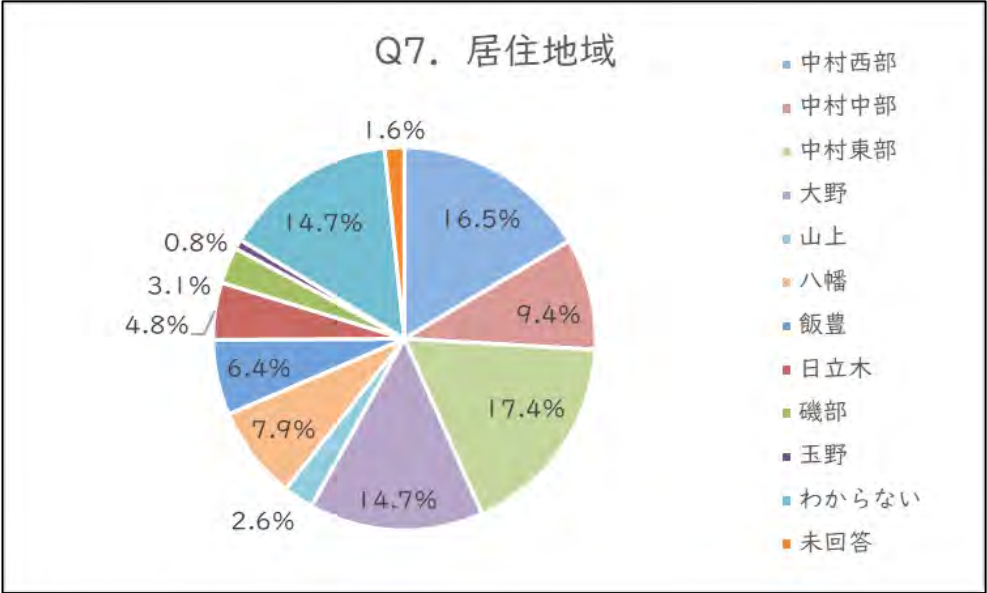
居住形態は、「持ち家の一戸建て」が82.6%と最も高く、次いで「民間賃貸のアパート・マンション」が8.8%、「公営・市営住宅」が3.1%となっています。



□地域での生活について

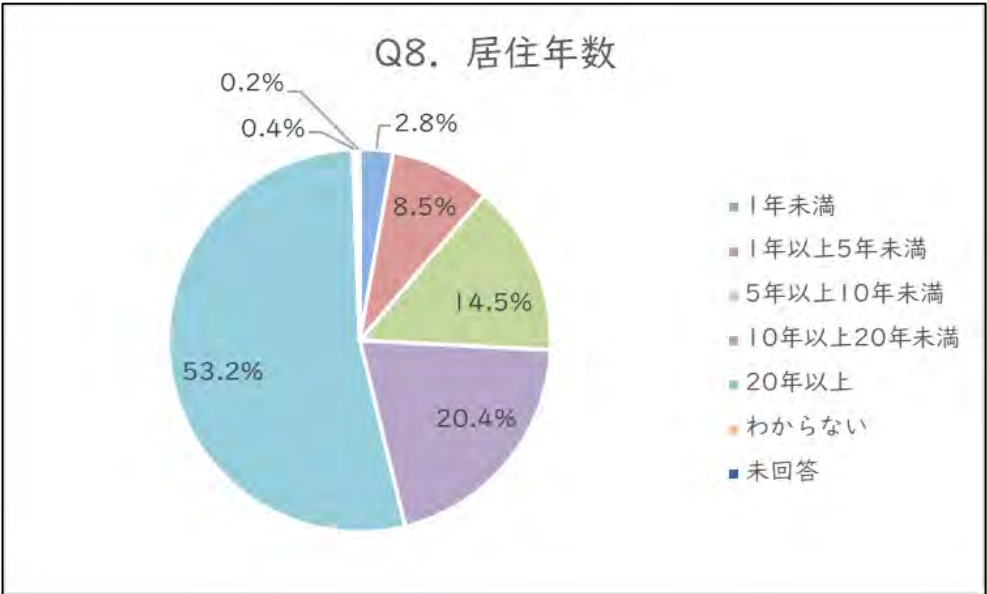
問7 あなたのお住まいの地域をお答えください。(1つ)

居住地は、「中村東部」が17.4%と最も高く、次いで「中村西部」が16.5%、「大野」が14.7%となっています。



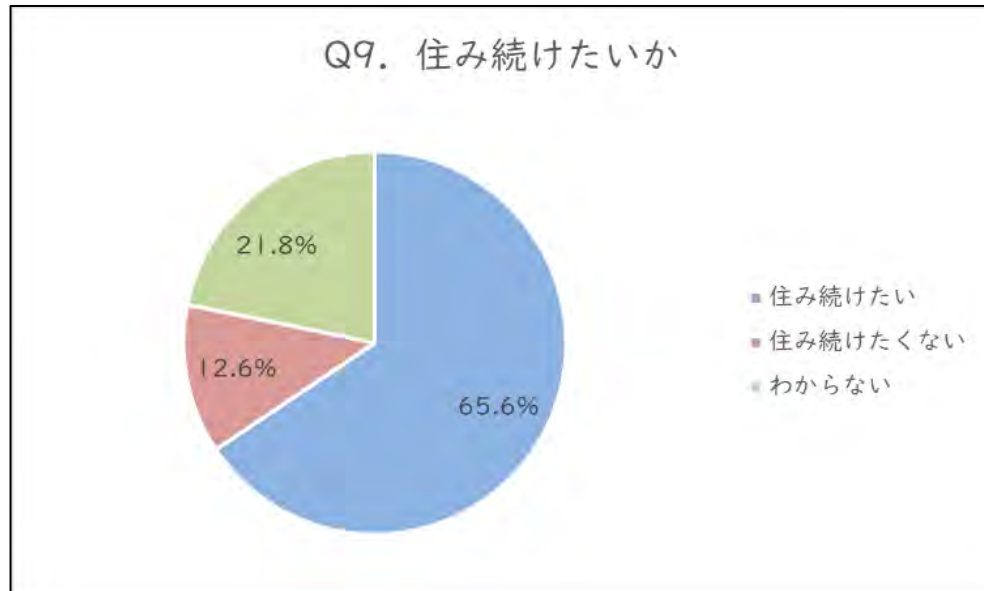
問8 あなたはお住まいの地域（問7で回答された地域）に何年住んでいますか。(1つ)

居住年数は、「20年以上」が53.2%と最も高く、次いで「10年以上20年未満」が20.4%、「5年以上10年未満」が14.5%となっています。



問9 あなたは現在お住まいの地域に今後も住み続けたいと思いますか。(1つ)

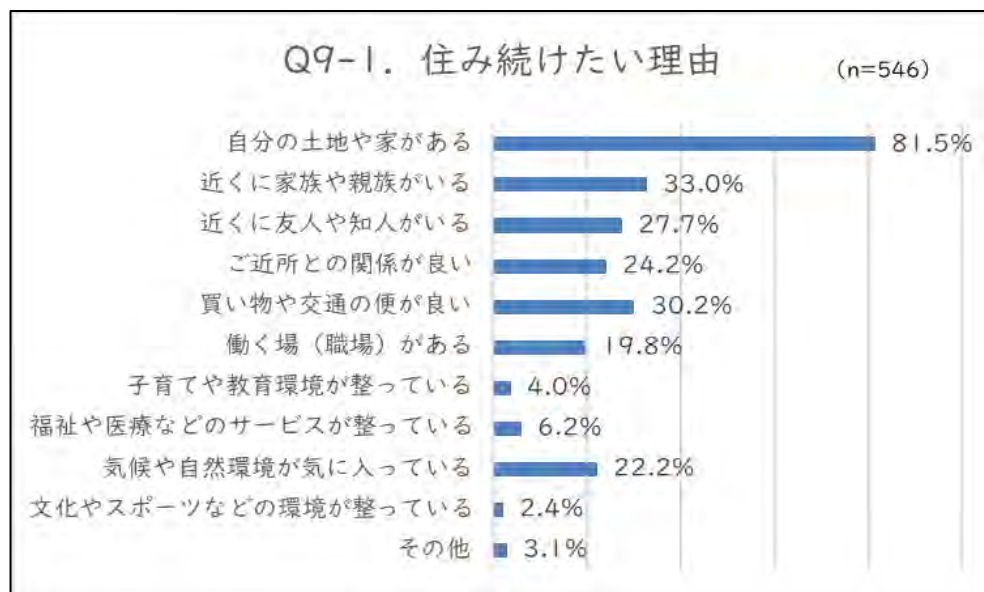
定住意向は、「住み続けたい」が65.6%、「住み続けたくない」が12.6%、「わからない」が21.8%となっています。



問9-1 【問9で「1」と回答された方にお聞きします】

住み続けたいと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

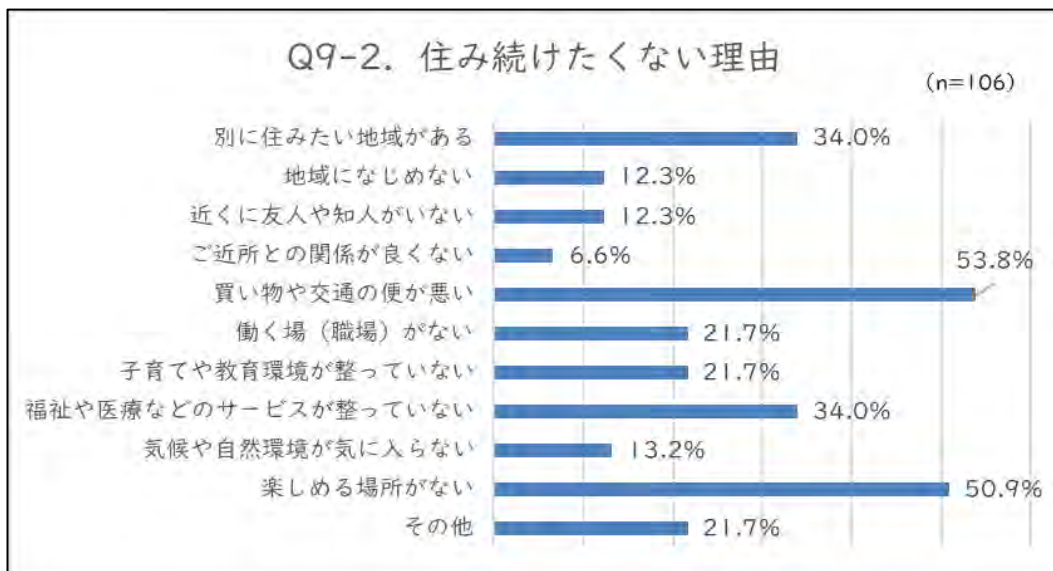
住み続けたいと思う理由は、「自分の土地や家がある」が81.5%と最も高く、次いで「近くに家族や親族がいる」が33.0%、「買い物や交通の便が良い」が30.2%となっています。



問9-2 【問9で「2」と回答された方にお聞きします】

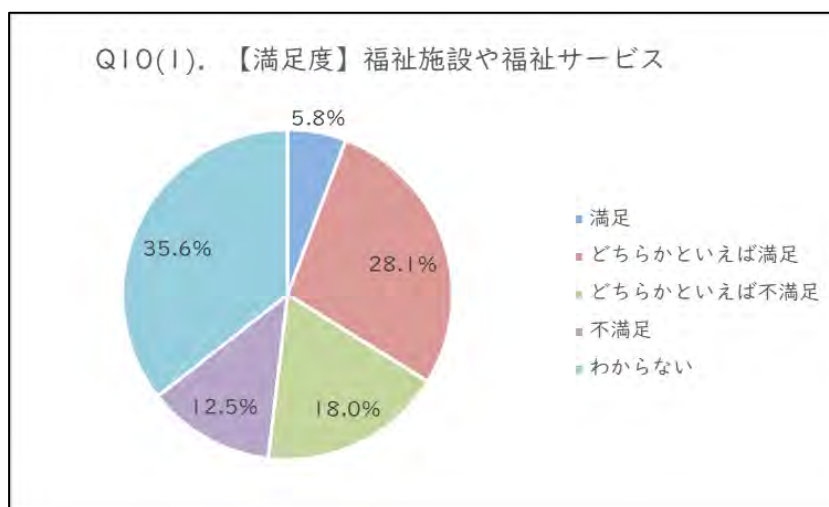
住み続けたくないと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

住み続けたくないと思う理由は、「買い物や交通の便が悪い」が53.8%と最も高く、次いで「楽しめる場所がない」が50.9%、「別に住みたい地域がある」「福祉や医療などのサービスが整っていない」がそれぞれ34.0%となっています。前設問の結果を踏まえると、住んでいる地域によって交通の便や買い物のしやすさに偏りがあると考えられます。

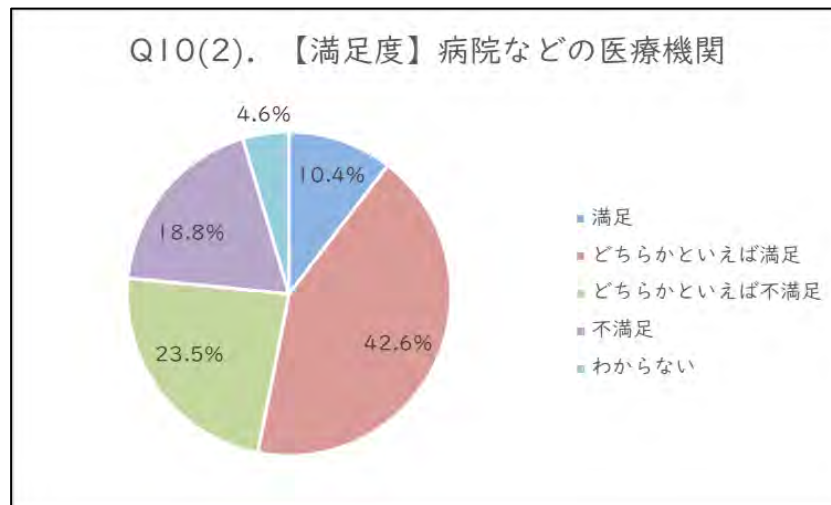


問10 あなたがお住まいの地域や周辺環境の満足度はいかがですか。(それぞれ1つだけ)

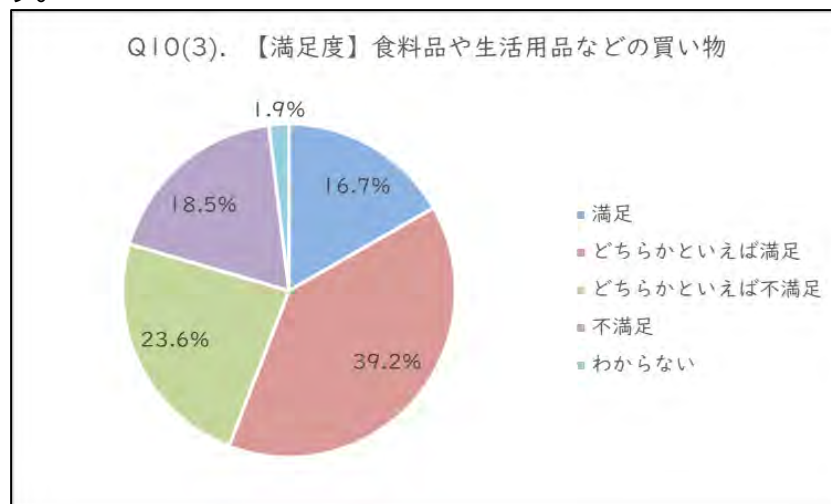
居住地域や周辺環境の満足度について、①福祉施設や福祉サービスは、「どちらかといえば満足」が28.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば不満足」が18.0%、「不満足」が12.5%となっています。満足度について全体を見ると、高齢者や障がいのある人が安心して暮らせる環境や防災・防犯対策の充実度について、特に満足度が低く、改善・対応が求められています。



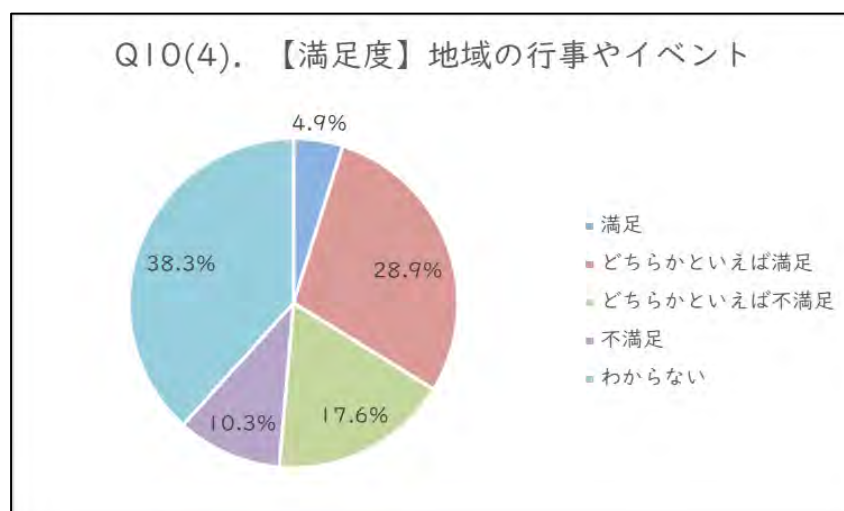
- ②病院などの医療機関は、「どちらかといえば満足」が42.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば不満足」が23.5%、「不満足」が18.8%となっています。



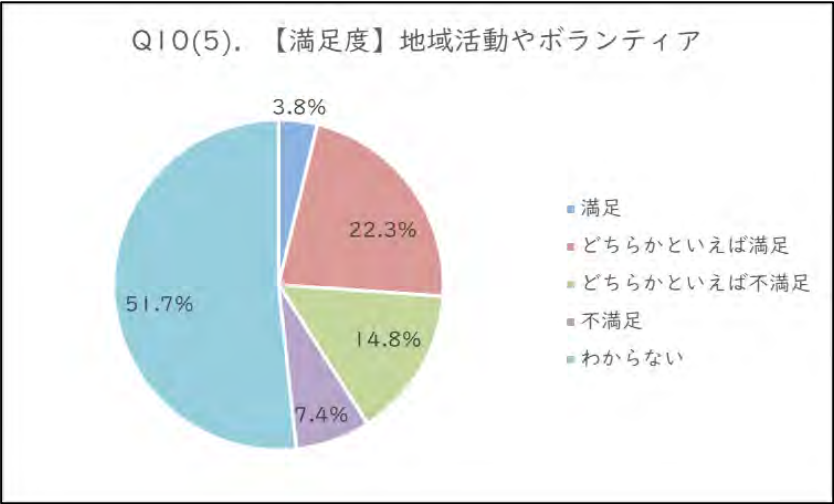
- ③食料品や生活用品などの買い物は、「どちらかといえば満足」が39.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば不満足」が23.6%、「不満足」が18.5%となっています。



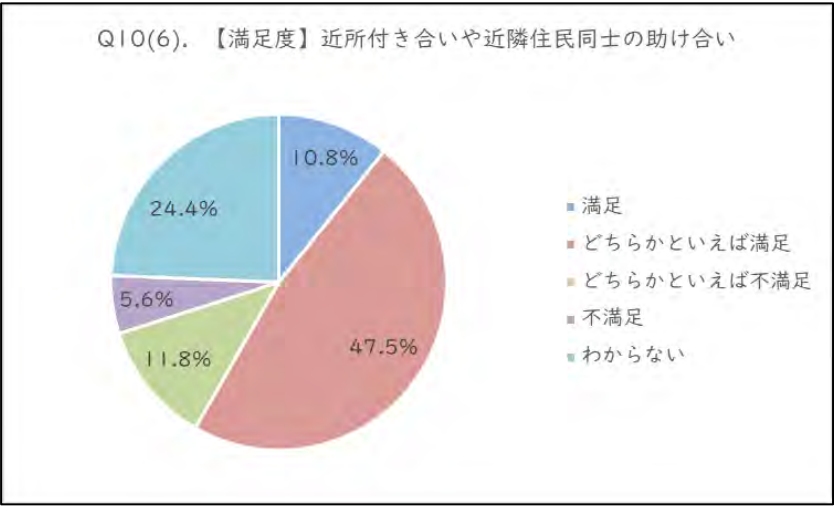
- ④地域の行事やイベントは、「どちらかといえば満足」が28.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば不満足」が17.6%、「不満足」が10.3%となっています。



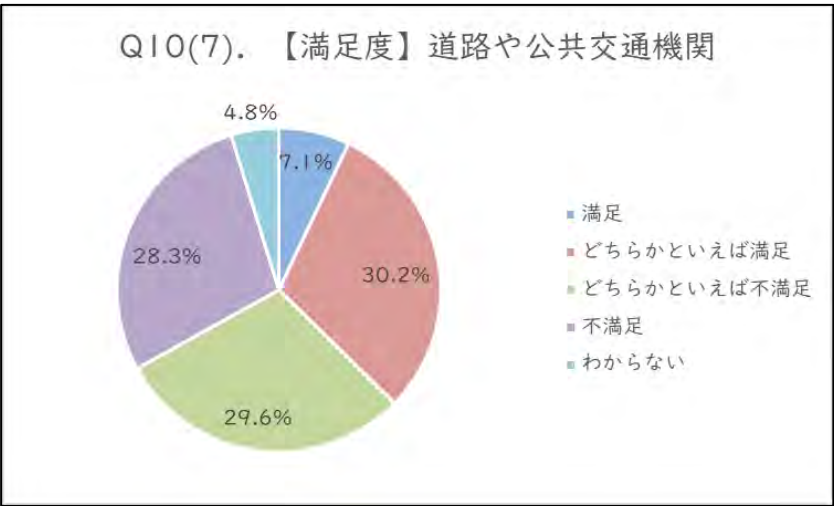
⑤地域活動やボランティアは、「どちらかといえば満足」が22.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば不満足」が14.8%、「不満足」が7.4%となっています。



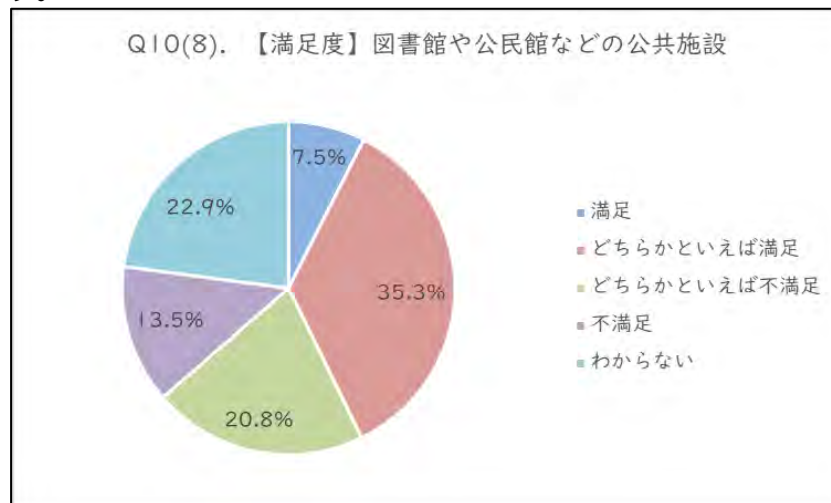
⑥近所付き合いや近隣住民同士の助け合いは、「どちらかといえば満足」が47.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば不満足」が11.8%、「満足」が10.8%となっています。



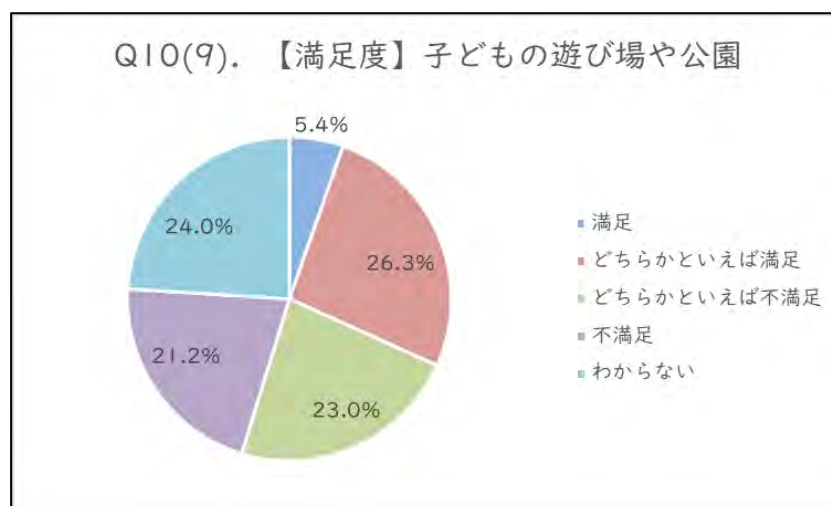
⑦道路や公共交通機関は、「どちらかといえば満足」が30.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば不満足」が29.6%、「不満足」が28.3%となっています。



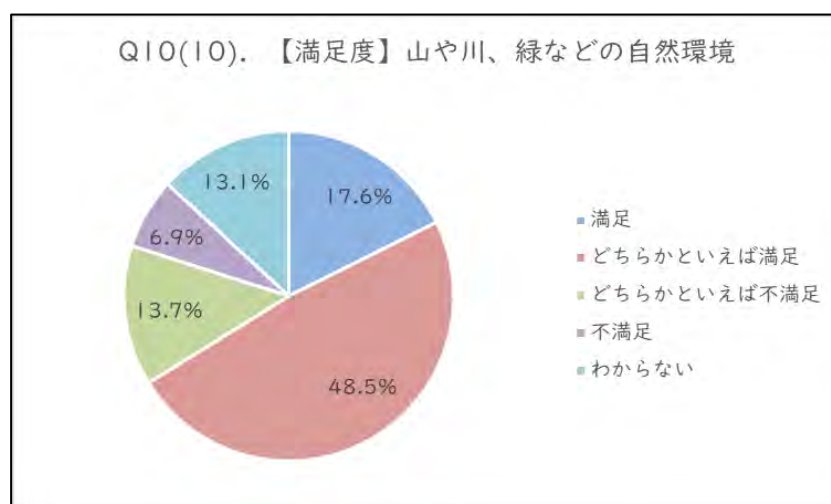
- ⑧図書館や公民館などの公共施設は、「どちらかといえば満足」が35.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば不満足」が20.8%、「不満足」が13.5%となっています。



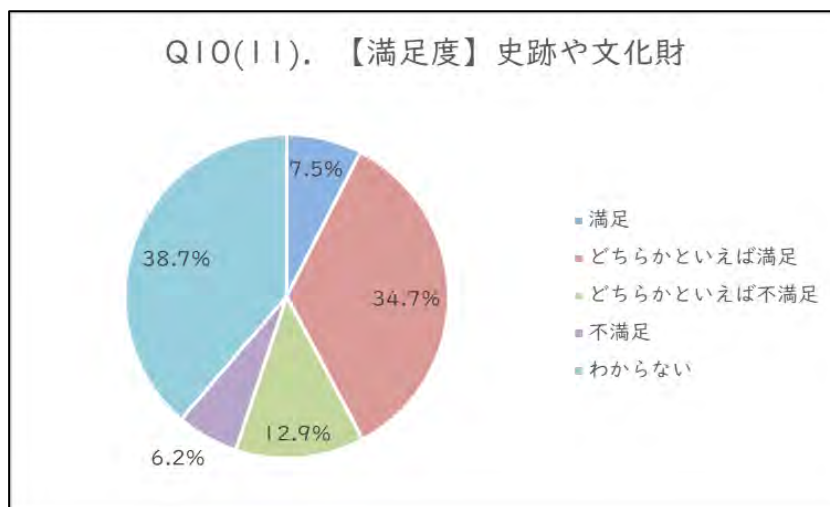
- ⑨子どもの遊び場や公園は、「どちらかといえば満足」が26.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば不満足」が23.0%、「不満足」が21.2%となっています。



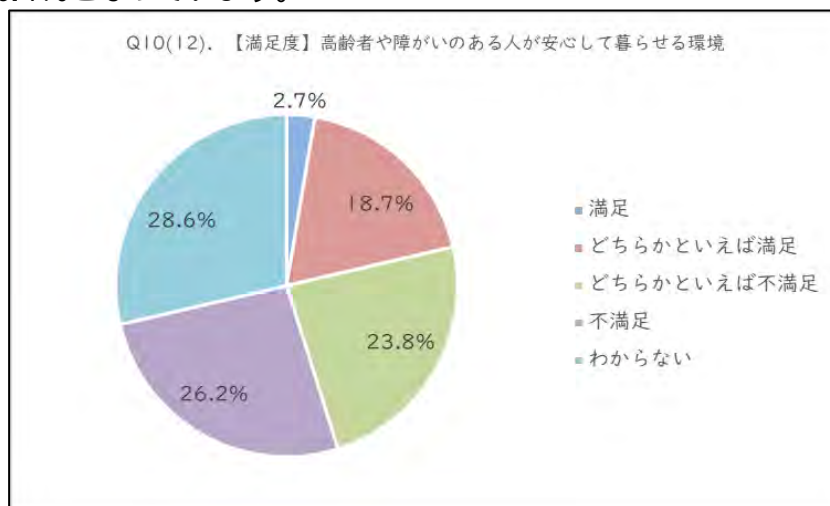
- ⑩山や川、緑などの自然環境は、「どちらかといえば満足」が48.5%と最も高く、次いで「満足」が17.6%、「どちらかといえば不満足」が13.7%となっています。



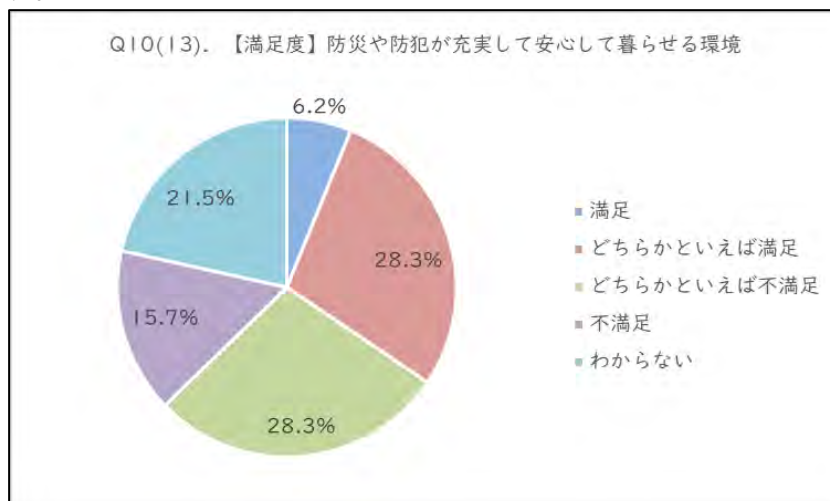
- ⑪史跡や文化財は、「どちらかといえば満足」が34.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば不満足」が12.9%、「満足」が7.5%となっています。



- ⑫高齢者や障がいのある人が安心して暮らせる環境は、「不満足」が26.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば不満足」が23.8%、「どちらかといえば満足」が18.7%となっています。

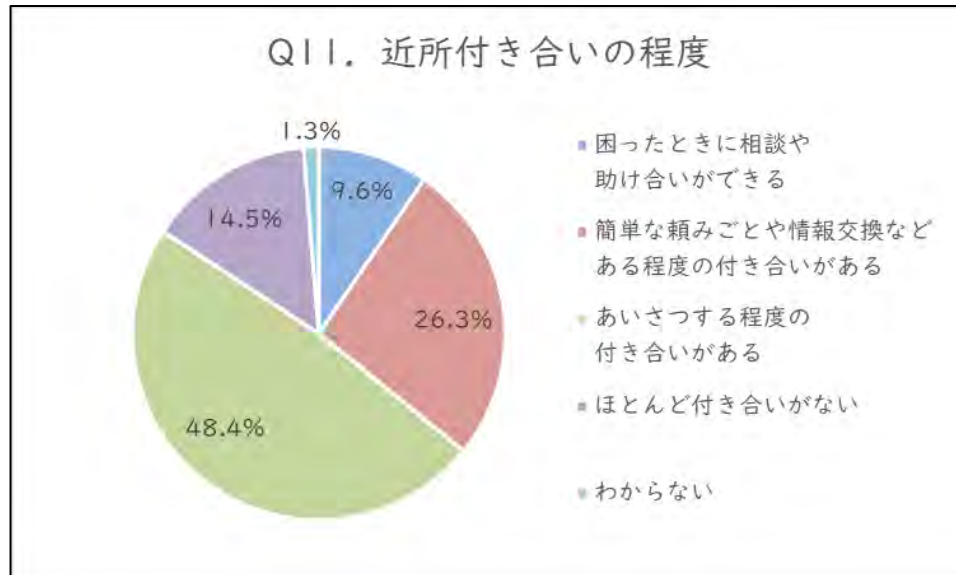


- ⑬防災や防犯が充実して安心して暮らせる環境は、「どちらかといえば満足」「どちらかといえば不満足」がそれぞれ28.3%、次いで「不満足」が15.7%となっています。



問11 あなたはご近所でのお付き合いをどの程度していますか。（1つだけ）

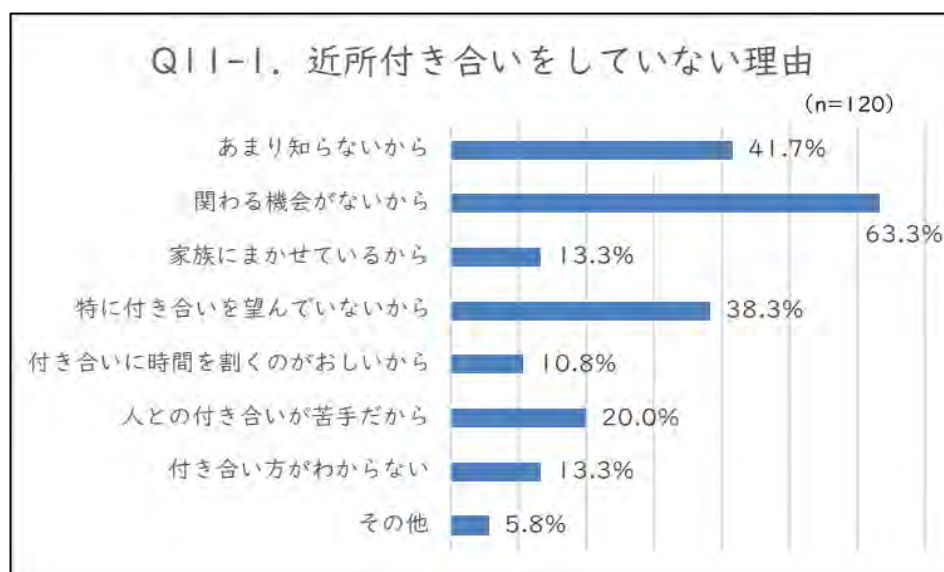
ご近所でのお付き合いの程度は、「あいさつする程度の付き合いがある」が48.4%と最も高く、次いで「簡単な頼みごとや情報交換などある程度の付き合いがある」が26.3%、「ほとんど付き合いがない」が14.5%となっています。また、「困ったときに相談や助け合いができる」は、9.6%であり、近所の方と深く関わりを持っている人は比較的少ない結果となっています。



問11-1 【問11で「4」と回答された方にお聞きします】

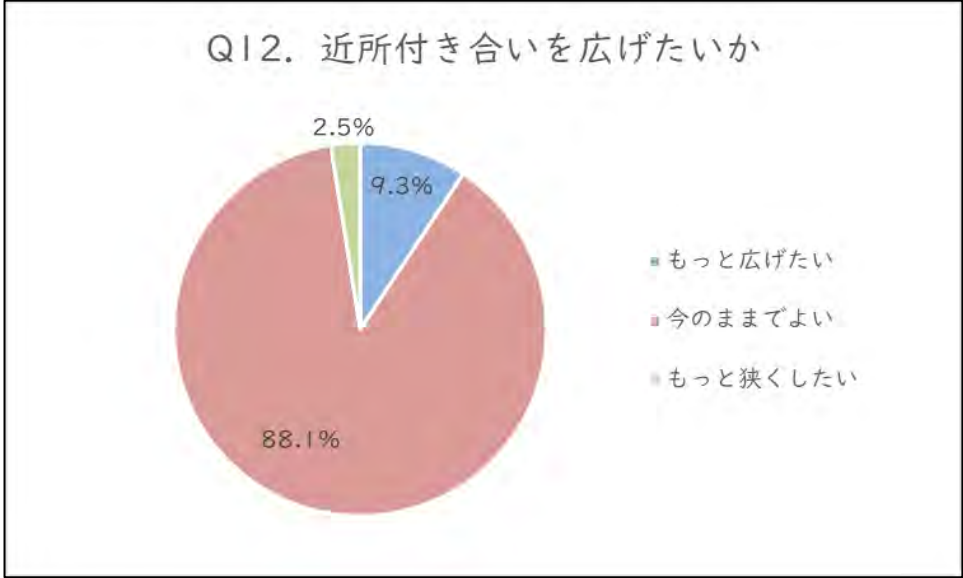
あなたがご近所でのお付き合いをしていない理由は何ですか。（あてはまるものすべて）

ご近所でのお付き合いをしていない理由は、「関わる機会がないから」が63.3%と最も高く、次いで「あまり知らないから」が41.7%、「特に付き合いを望んでいないから」が38.3%となっています。



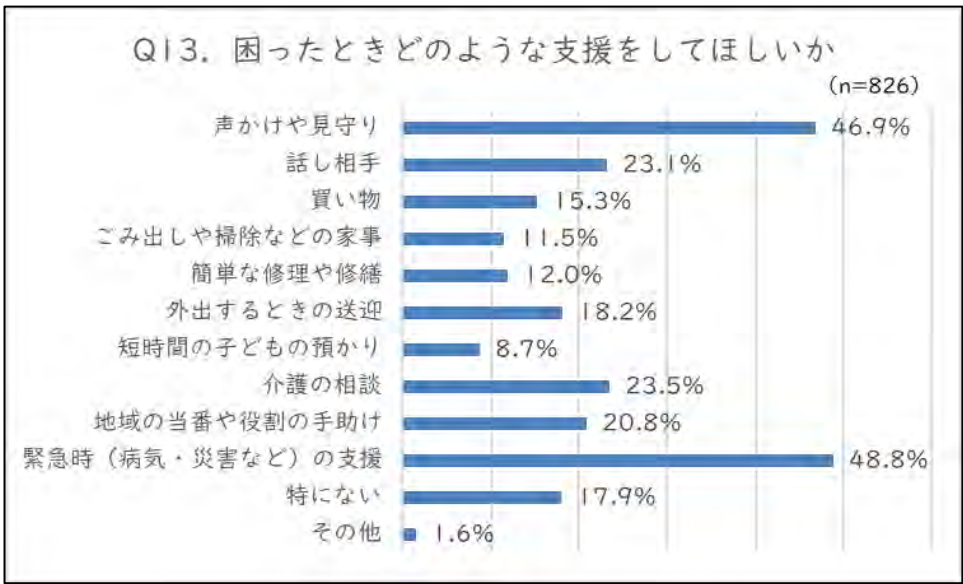
問12 あなたはご近所でのお付き合いを広げたいと思いますか。(1つだけ)

今後のご近所でのお付き合いの程度は、「今のままでよい」が88.1%と最も高く、次いで「もっと広げたい」が9.3%、「もっと狭くしたい」が2.5%となっており、現状維持を希望する人が多い状況となっています。



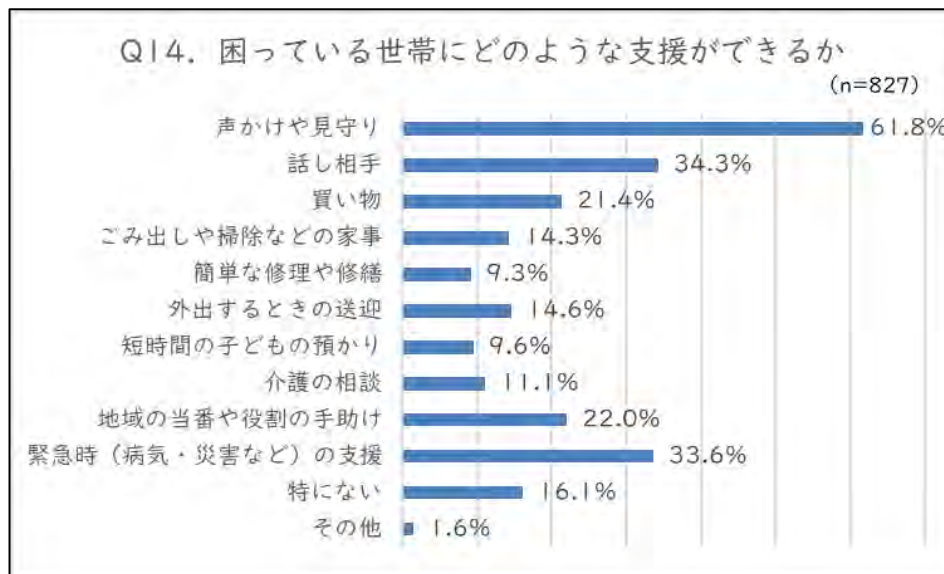
問13 あなたやご家族が高齢や介護、病気、子育てなどで困ったとき、地域の人にどのような支援をしてほしいですか。(あてはまるものすべて)

困ったときに地域の人に支援してほしいことは、「緊急時（病気・災害など）の支援」が48.8%と最も高く、次いで「声かけや見守り」が46.9%、「介護の相談」が23.5%、「話し相手」が23.1%となっています。



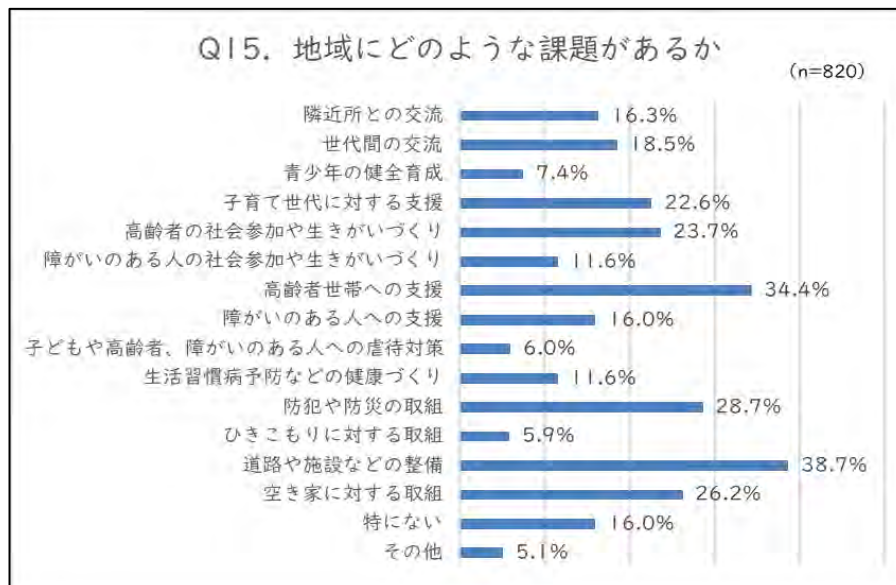
問14 お住まいの地域において高齢や介護、病気、子育てなどで困っている世帯があったら、あなたはどのような支援ができると思いますか。
(あてはまるものすべて)

地域に困っている世帯があるときに支援できると思うことは、「声かけや見守り」が61.8%と最も高く、次いで「話し相手」が34.3%、「緊急時（病気・災害など）の支援」が33.6%となっています。前設問の結果を踏まえると、「緊急時（病気・災害など）の支援」「声かけや見守り」「話し相手」など、支援してほしいことと支援できることの内容に大きな乖離はない結果となっています。



問15 あなたはお住まいの地域にどのような課題や問題があると思いますか。(あてはまるものすべて)

地域の課題や問題は、「道路や施設などの整備」が38.7%と最も高く、次いで「高齢者世帯への支援」が34.4%、「防犯や防災の取組」が28.7%、「空き家に対する取組」が26.2%となっています。地域別に見ると、中村西部、中村中部、中村東部、大野、八幡など、多くの地域で「道路や施設などの整備」が最も重要な課題と考えられており、「高齢者世帯への支援」も各地域で上位を占めています。

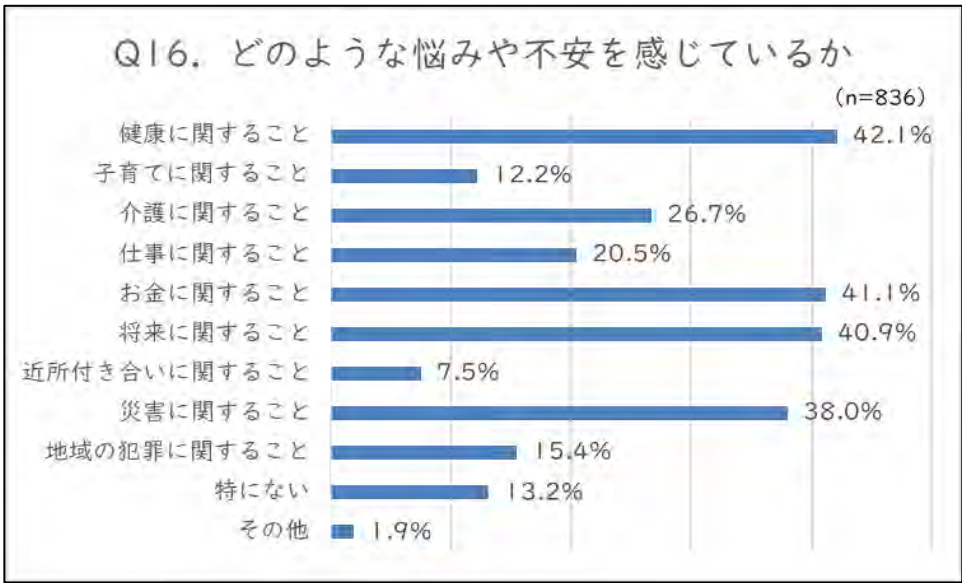


【Q15】 地域別課題（上位3項目）

	1 位	2 位	3 位
中村西部 (n=136)	道路や施設などの整備(41.9%)	高齢者世帯への支援(33.8%) 空き家に対する取組(33.8%)	防犯や防災の取組(32.4%)
中村中部 (n=76)	道路や施設などの整備(32.9%)	高齢者世帯への支援(27.6%) 防犯や防災の取組(27.6%)	特になし(26.3%)
中村東部 (n=141)	道路や施設などの整備(41.8%)	高齢者世帯への支援(34.0%)	防犯や防災の取組(30.5%)
大野 (n=119)	道路や施設などの整備(37.8%)	高齢者世帯への支援(36.1%)	防犯や防災の取組(29.4%)
山上 (n=22)	高齢者の社会参加や生きがいづくり (50.0%)	世代間の交流(45.5%) 高齢者世帯への支援(45.5%)	防犯や防災の取組(31.8%) 道路や施設などの整備(31.8%)
八幡 (n=63)	道路や施設などの整備(41.3%)	空き家に対する取組(38.1%)	高齢者世帯への支援(34.9%)
飯豊 (n=54)	高齢者世帯への支援(44.4%)	道路や施設などの整備(31.5%)	世代間の交流(27.8%) 防犯や防災の取組(27.8%)
日立木 (n=41)	空き家に対する取組(41.5%)	高齢者世帯への支援(39.0%) 道路や施設などの整備(39.0%)	防犯や防災の取組(31.7%)
磯部 (n=26)	高齢者世帯への支援(61.5%)	子育て世代に対する支援(38.5%) 高齢者の社会参加や生きがいづくり (38.5%)	世代間の交流(34.6%) 道路や施設などの整備(34.6%)
玉野 (n=6)	空き家に対する取組(66.7%)	高齢者世帯への支援(50.0%)	道路や施設などの整備(33.3%)

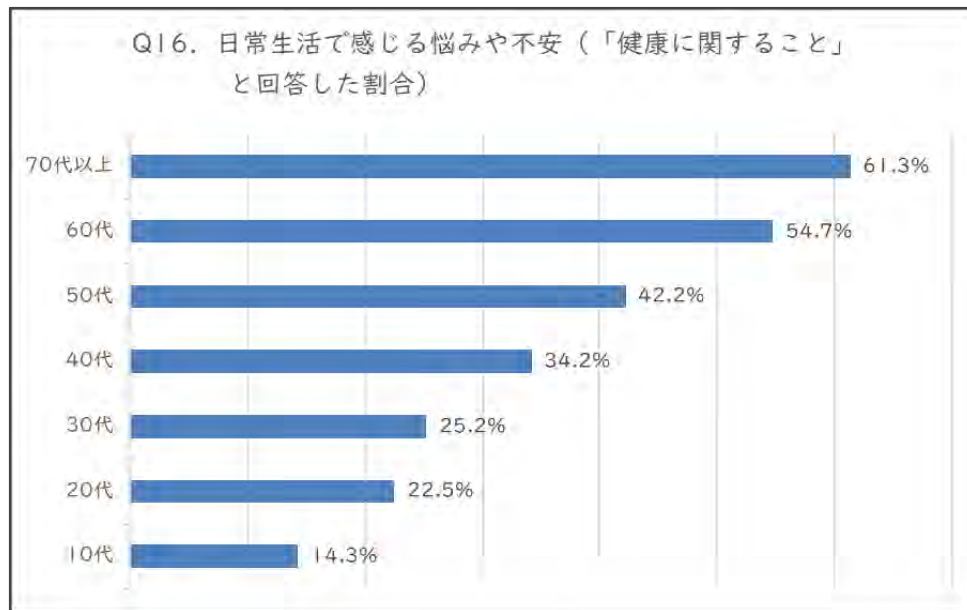
問16 あなたは日常生活の中でどのようなことに悩みや不安を感じていますか。（あてはまるものすべて）

日常生活で感じている悩みや不安は、「健康に関すること」が 42.1%と最も高く、次いで「お金に関すること」が 41.1%、「将来に関すること」が 40.9%、「災害に関すること」が 38.0%となっています。



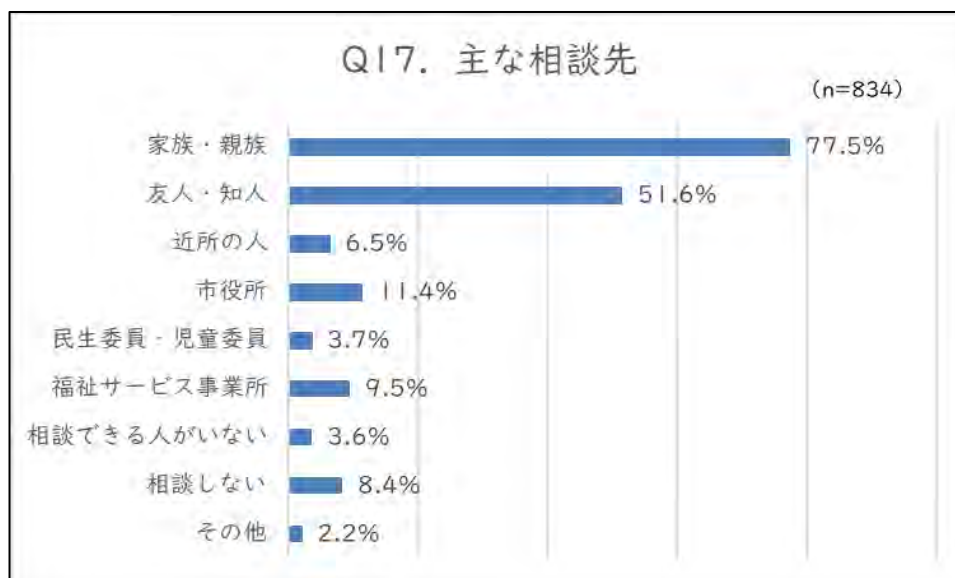
第2章 相馬市の現状と課題

年齢別に見ると、年齢が高くなるほど「健康に関すること」と回答した割合が高くなっています。



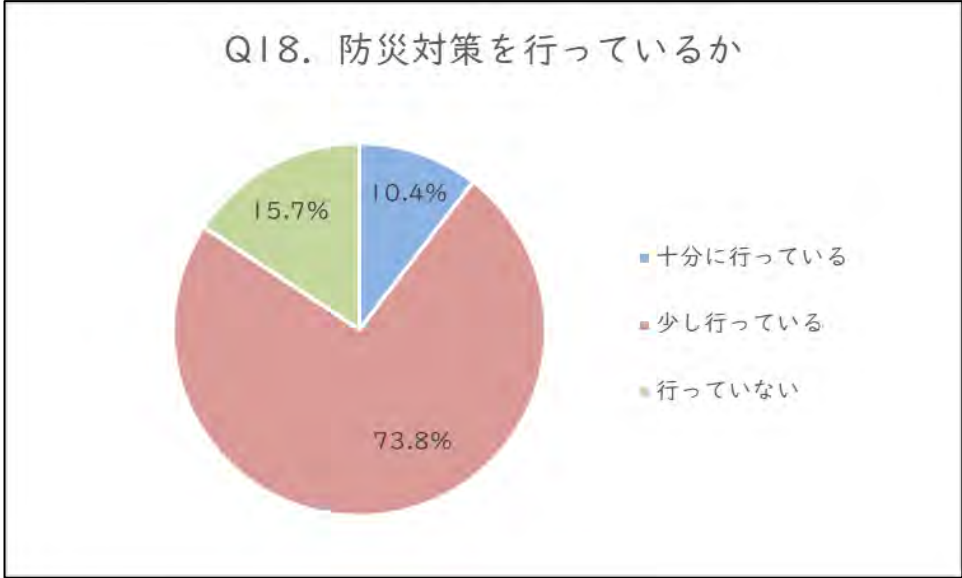
問17 あなたは悩みや不安を相談する場合、どこに相談しますか。（あてはまるものすべて）

悩みや不安の相談先は、「家族・親族」が77.5%と最も高く、次いで「友人・知人」が51.6%となっています。ほとんどの人が周囲の身近な方に相談をしていることが分かります。



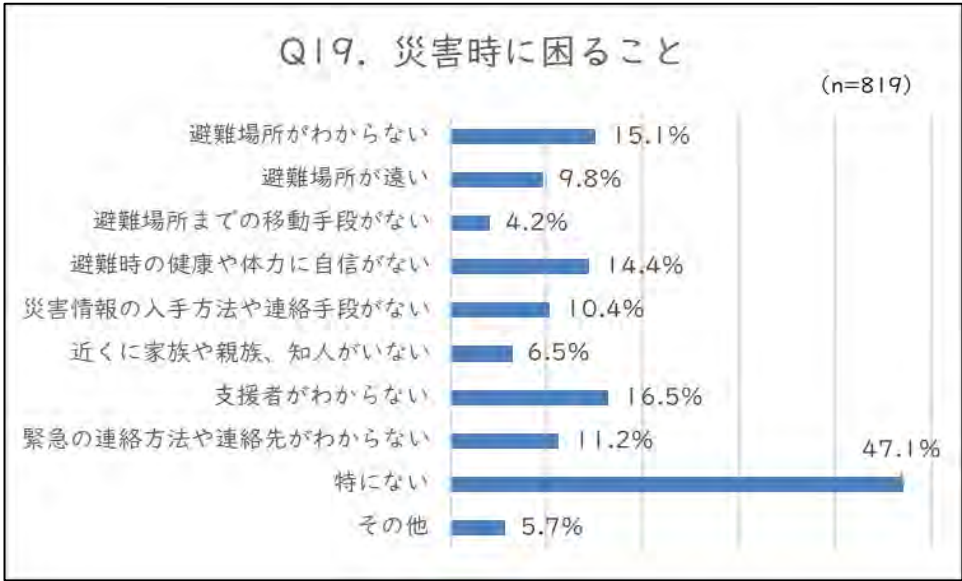
問18 あなたは飲料水・食料などの備蓄や家具転倒防止など、災害発生に備え、防災対策を行っていますか。(1つだけ)

防災対策は、「少し行っている」が73.8%と最も高く、次いで「行っていない」が15.7%、「十分に行っている」が10.4%となっています。問15で「防犯や防災の取組」が地域課題として比較的重視されている一方で、十分に防災対策を行っている人は約1割に留まる結果となりました。



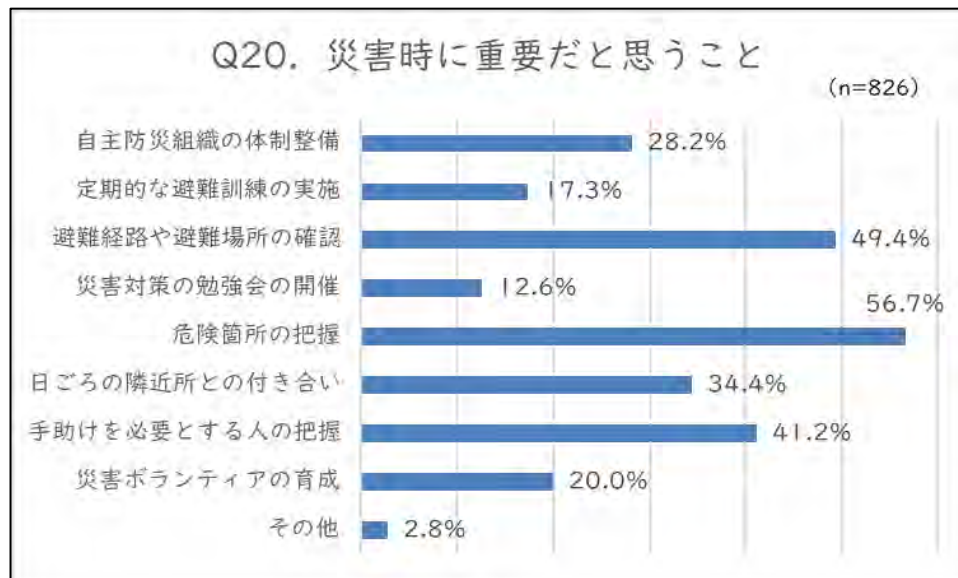
問19 あなたは災害が発生したとき、困ることはありますか。(あてはまるものすべて)

災害時に困ることは、「特にない」が47.1%と最も高い結果となりましたが、「支援者がわからない」が16.5%、「避難場所がわからない」が15.1%、「避難時の健康や体力に自信がない」が14.4%などとなっています。



問20 あなたは災害が発生したときの備えとして、地域においてどのようなことが重要だと思いますか。(あてはまるものすべて)

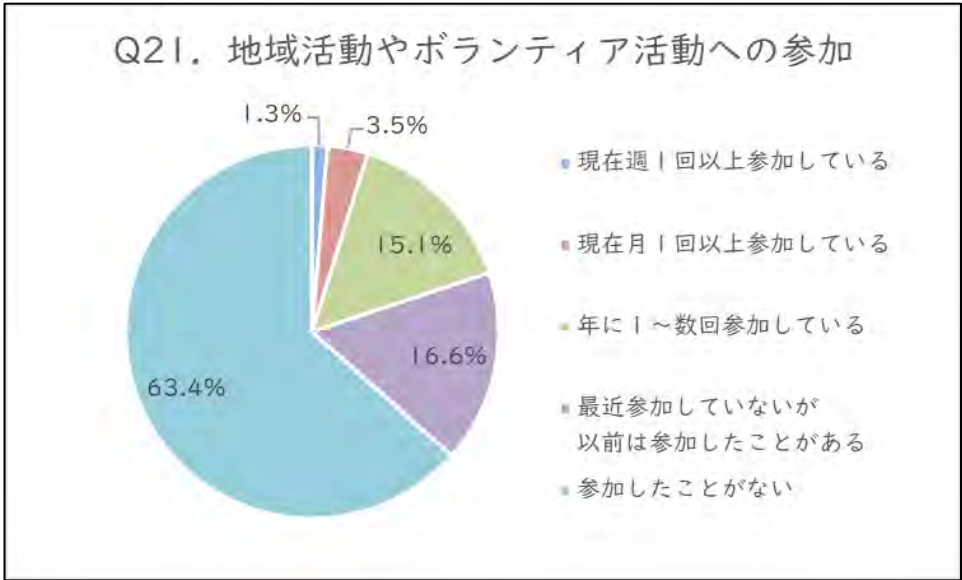
災害時に地域で重要なことは、「危険箇所の把握」が56.7%と最も多く、次いで「避難経路や避難場所の確認」が49.4%、「手助けを必要とする人の把握」が41.2%、「日ごろの隣近所との付き合い」が34.4%と続いています。



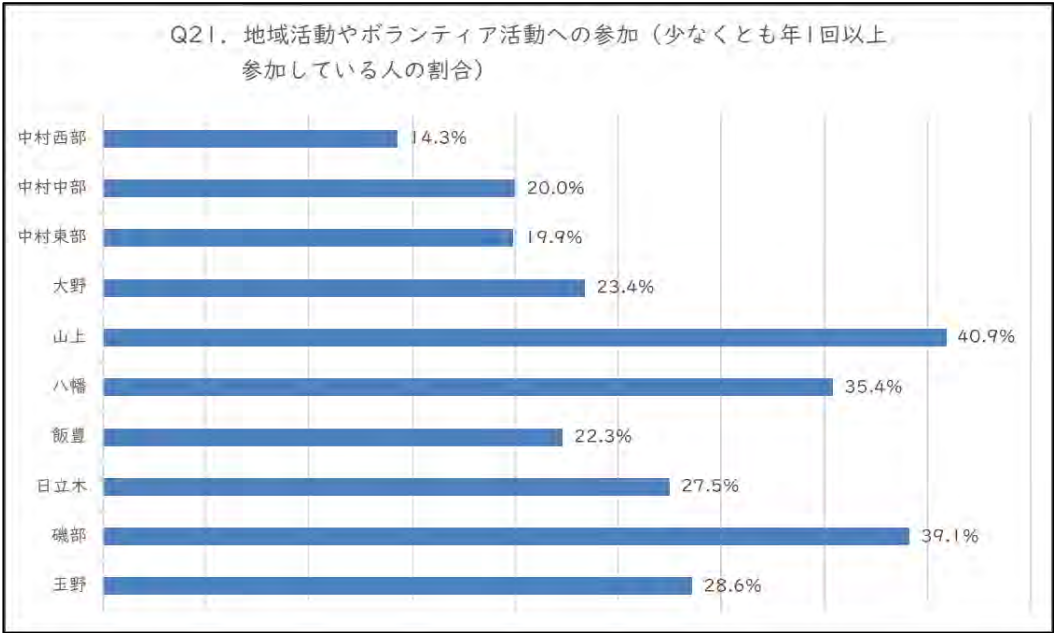
□地域活動・ボランティア活動について

問21 あなたは現在地域活動やボランティア活動に参加していますか。(1つだけ)

地域活動やボランティア活動への参加は、「参加したことがない」が63.4%と最も高く、次いで「最近参加していないが以前は参加したことがある」が16.6%と続き、参加している人が少ないことが分かります。

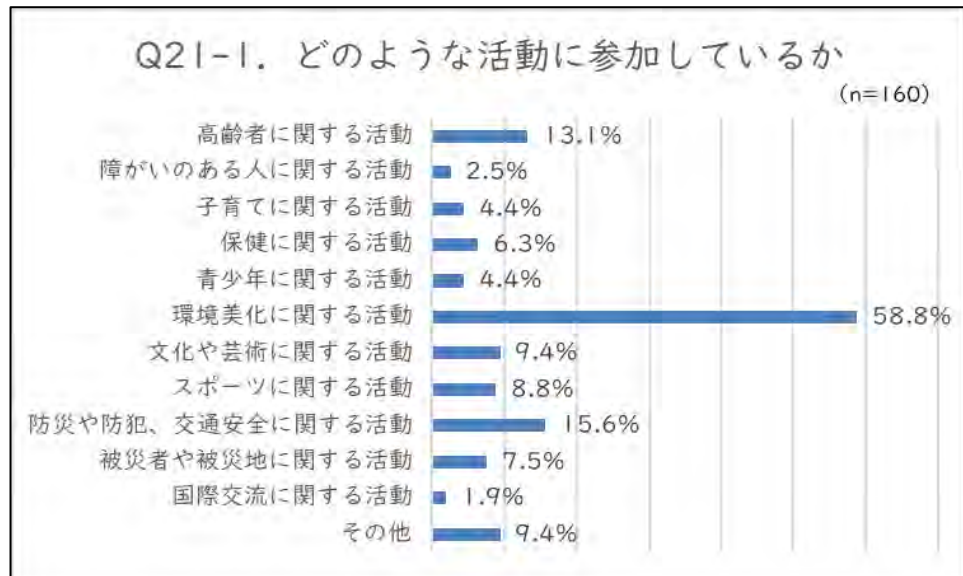


地域別に見ると、山上が4割以上と参加割合が最も多く、磯部、八幡、玉野、日立木と続きます。一方で、飯豊、大野、中村中部、中村東部、中村西部は参加割合が2.5割に満たない結果となりました。



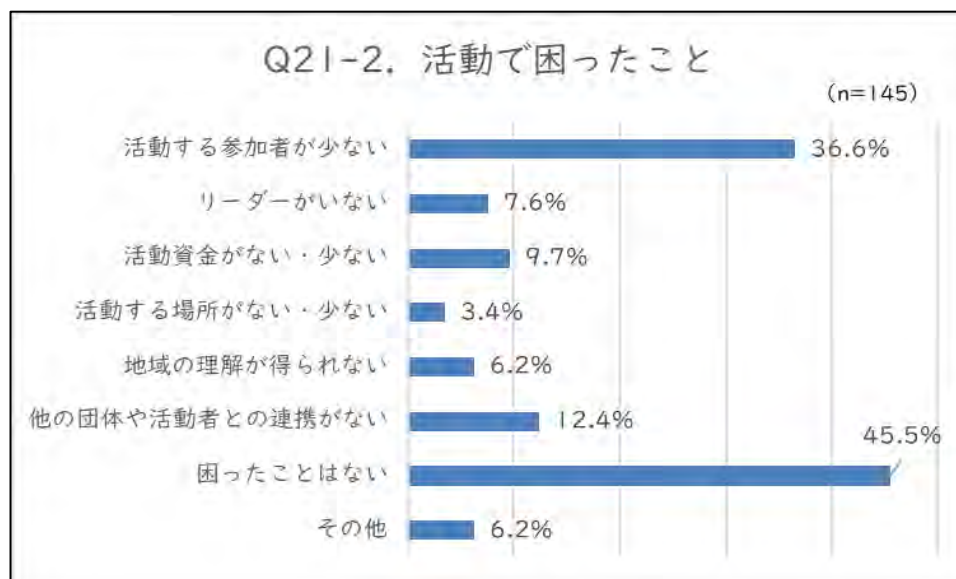
問21-1 【問21で「1」「2」「3」と回答された方にお聞きします】
どのような活動に参加していますか。(あてはまるものすべて)

参加している活動内容は、「環境美化に関する活動」が58.8%と最も多く、次いで「防災や防犯、交通安全に関する活動」が15.6%、「高齢者に関する活動」が13.1%となっています。



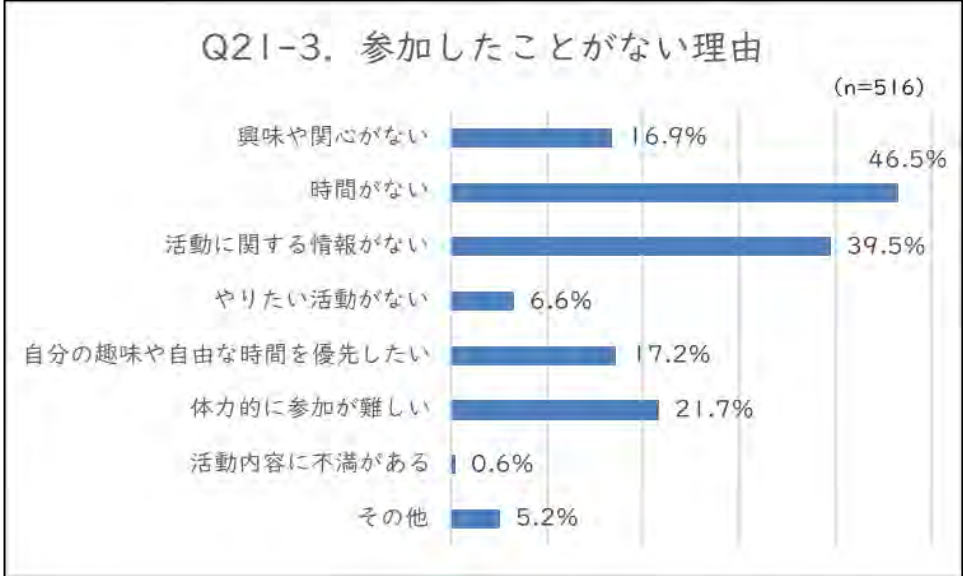
問21-2 【問21で「1」「2」「3」と回答された方にお聞きします】
地域活動やボランティア活動に参加する中で、困ったことや苦勞したことはありますか。(あてはまるものすべて)

活動に参加するうえで困ったことは、「困ったことはない」が45.5%と最も高い結果となりましたが、「活動する参加者が少ない」が36.6%と多数を占めています。



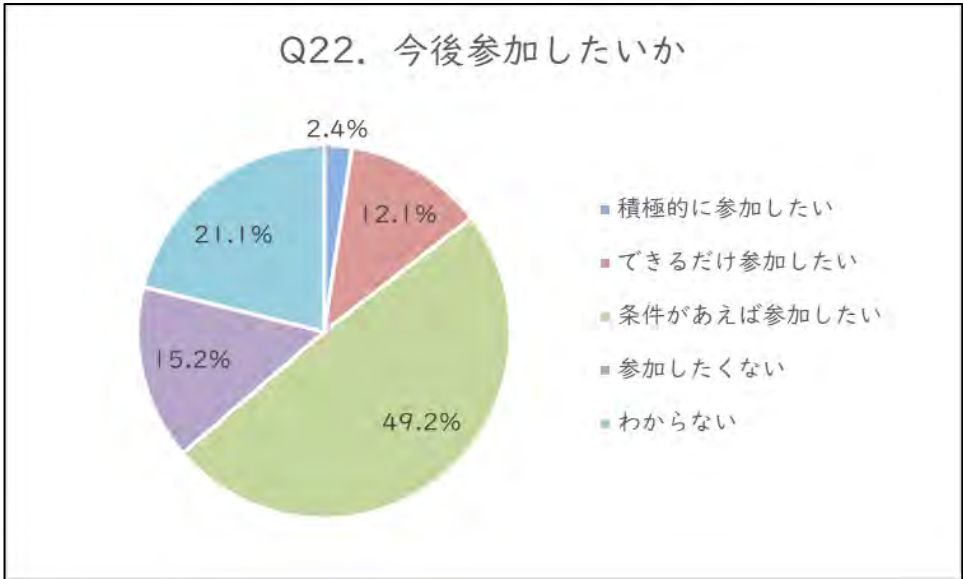
問21-3 【問21で「5」と回答された方にお聞きします】
参加したことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

活動に参加したことがない理由は、「時間がない」が46.5%と最も多く、次いで「活動に関する情報がない」が39.5%、「体力的に参加が難しい」が21.7%となっています。



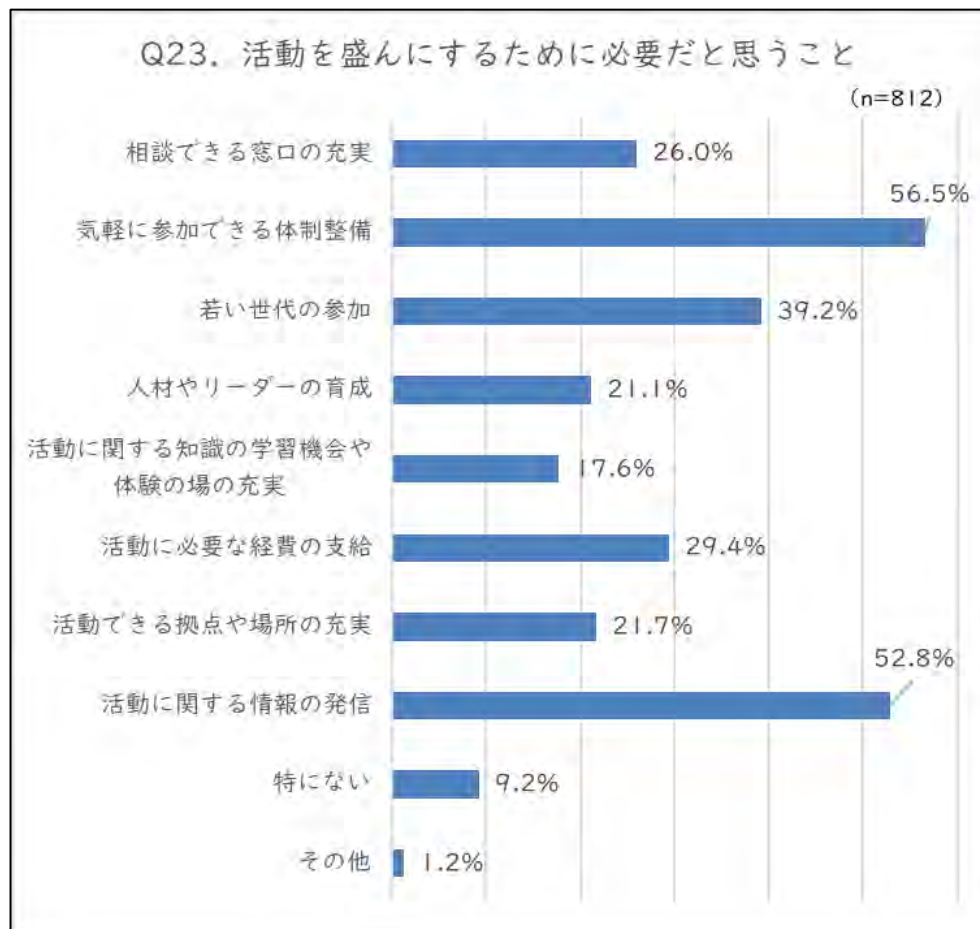
問22 あなたは今後地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。(1つだけ)

今後の地域活動やボランティア活動については、「条件があれば参加したい」が49.2%と最も高く、次いで「参加したくない」が15.2%、「できるだけ参加したい」が12.1%となっています。



問23 地域活動やボランティア活動を盛んにするために、あなたが必要だと思うことは何ですか。（あてはまるものすべて）

地域活動やボランティア活動を盛んにするために必要だと思うことは、「気軽に参加できる体制整備」が56.5%と最も多く、次いで「活動に関する情報の発信」が52.8%、「若い世代の参加」が39.2%となっています。

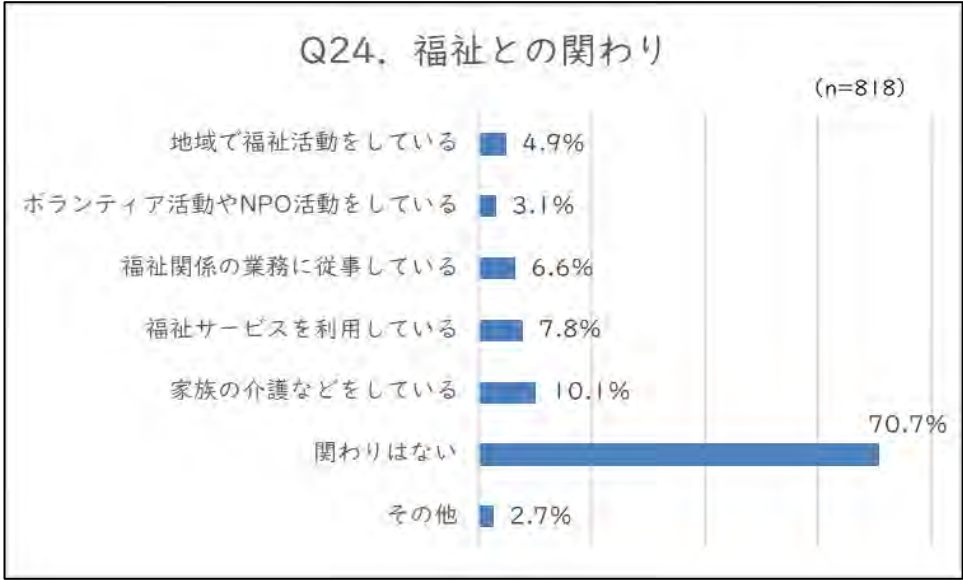


問21では「参加したことがない」人が6割以上を占めていますが、一方で、問22では「参加したい」と考えている人も6割を超えていることから、体制整備や情報発信の充実により、より多くの人の参加が期待できると考えられます。

□福祉施策について

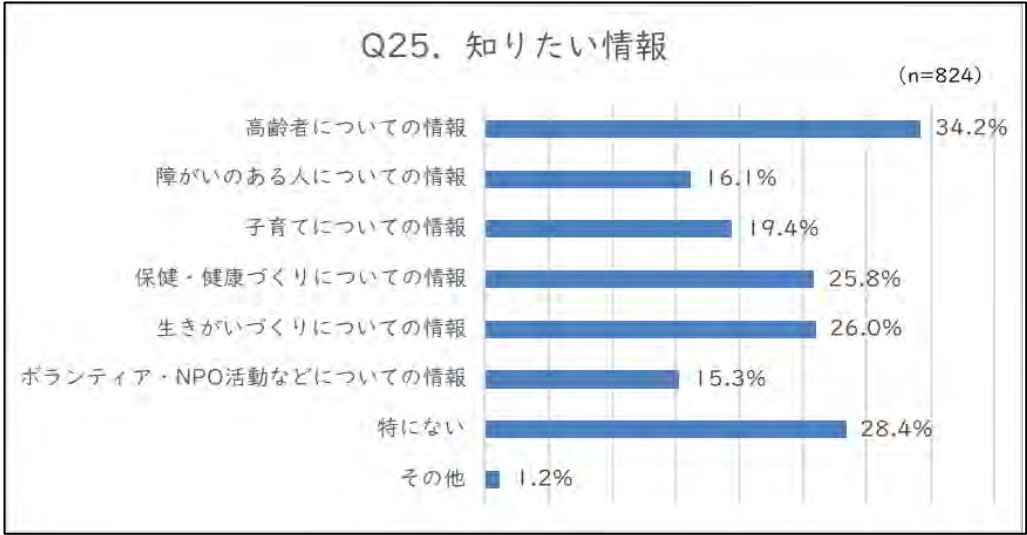
問24 あなたは現在福祉との関わりはありますか。(あてはまるものすべて)

現在の福祉との関わりについては、「関わりはない」が70.7%と最も多く、関わりがある人の中では、「家族の介護などを行っている」が10.1%、「福祉サービスを利用している」が7.8%などとなっています。



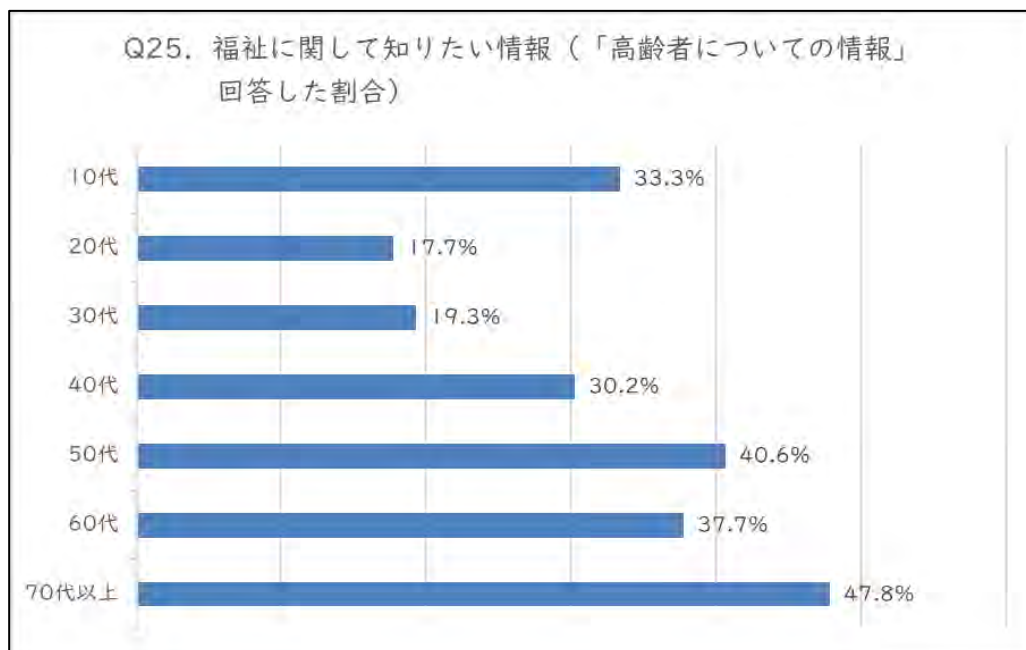
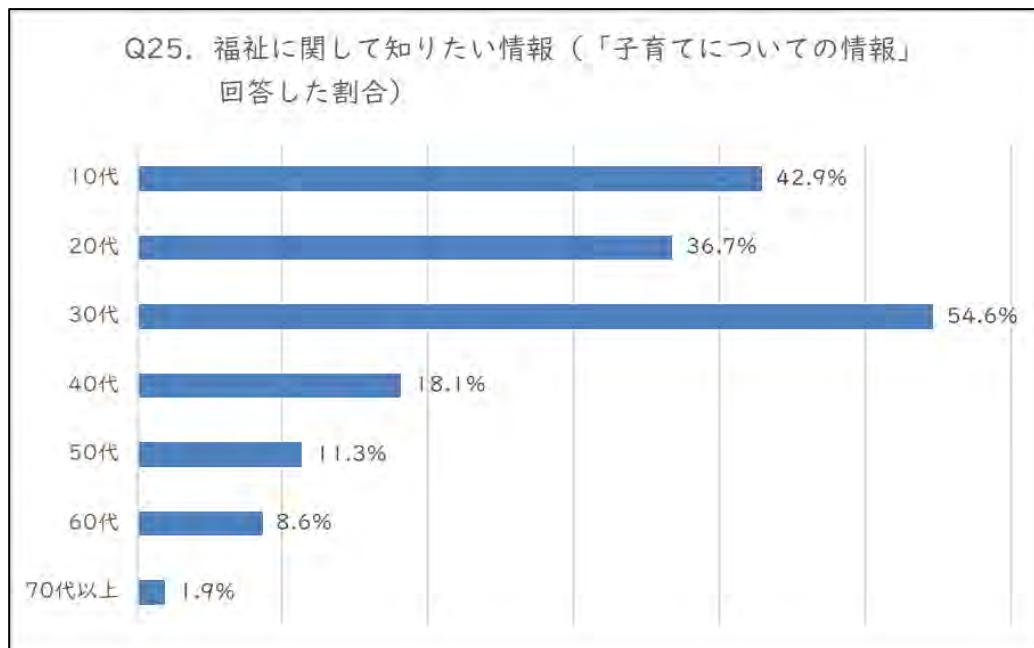
問25 あなたは福祉に関してどのような情報を知りたいですか。(あてはまるものすべて)

福祉に関して知りたい情報は、「高齢者についての情報」が34.2%と最も高く、次いで「特になし」が28.4%、「生きがいづくりについての情報」が26.0%、「保健・健康づくりについての情報」が25.8%となっています。問4で同居のご家族の中に「65歳以上の方」がいる人(本人を含む)が4割を超える結果となっているため、「高齢者についての情報」を求める人が多いと考えられます。



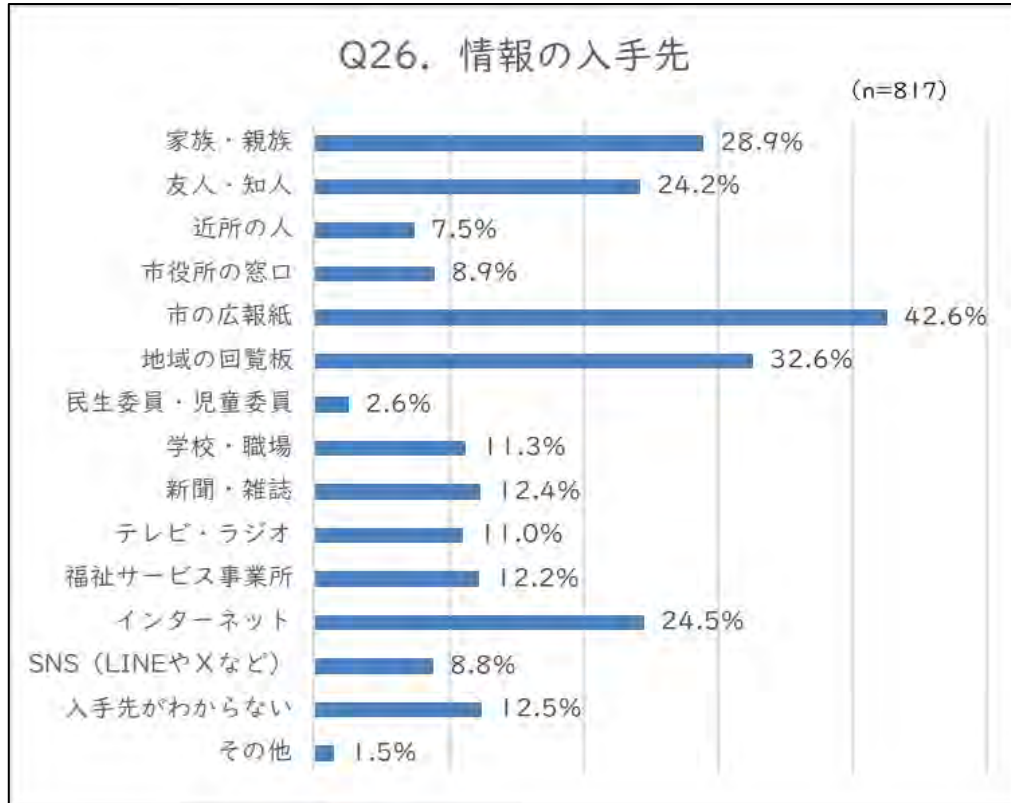
第2章 相馬市の現状と課題

また、年齢別に見ると、若い世代は「子育てについての情報」の回答割合が高く、年齢が高い人は「高齢者についての情報」の回答割合が高い傾向にあります。



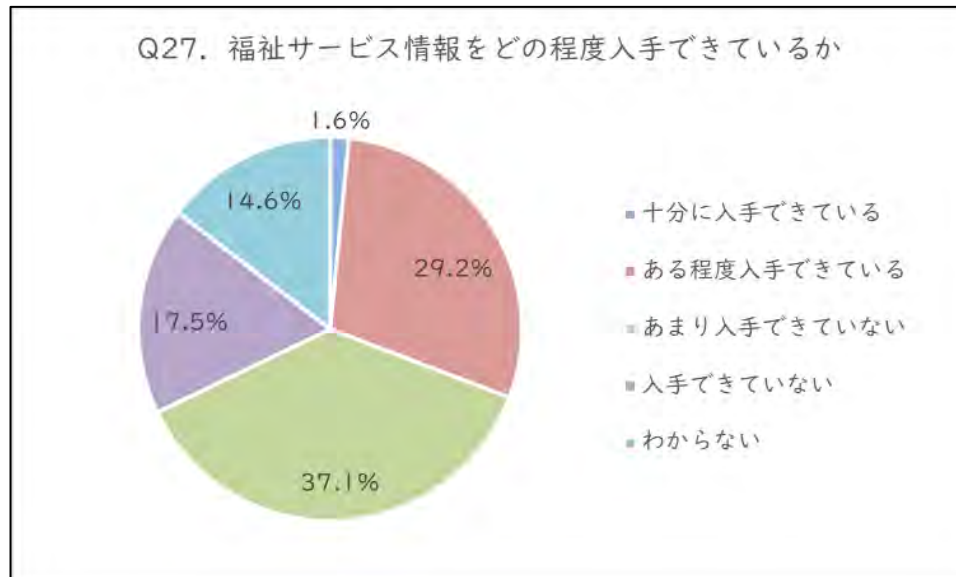
問26 あなたは福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。
(あてはまるものすべて)

福祉サービスに関する情報の入手先は、「市の広報誌」が42.6%と最も高く、次いで「地域の回覧板」が32.6%、「家族・親族」が28.9%、「インターネット」が24.5%となっています。



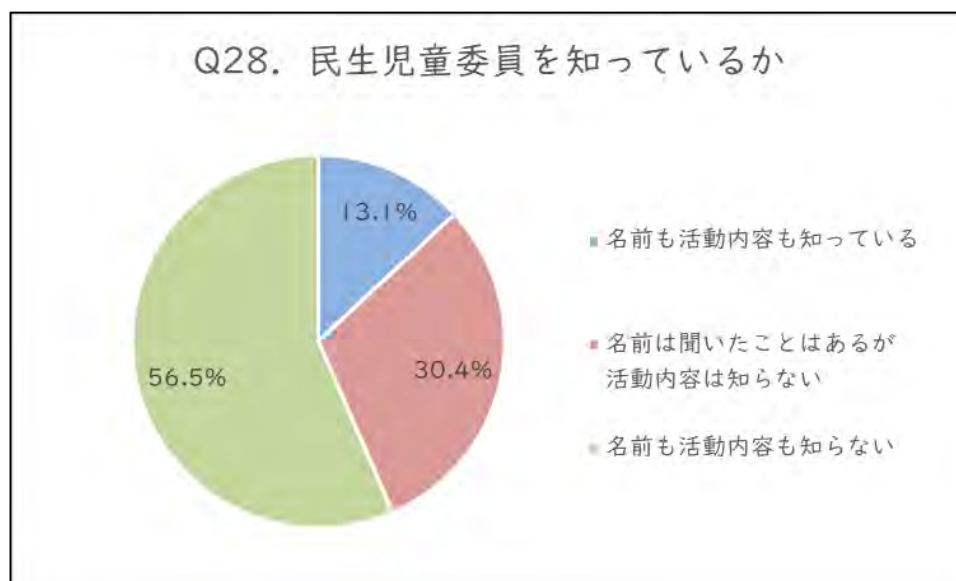
問27 あなたは福祉サービスに関する情報をどの程度入手できていますか。(あてはまるものすべて)

福祉サービスに関する情報をどの程度入手できているかについては、「あまり入手できていない」が37.1%と最も多く、次いで「ある程度入手できている」が29.2%、「入手できていない」が17.5%となっています。「十分に入手できている」と回答した人は少なく、入手できていないと考える人が半数を超える結果となりました。

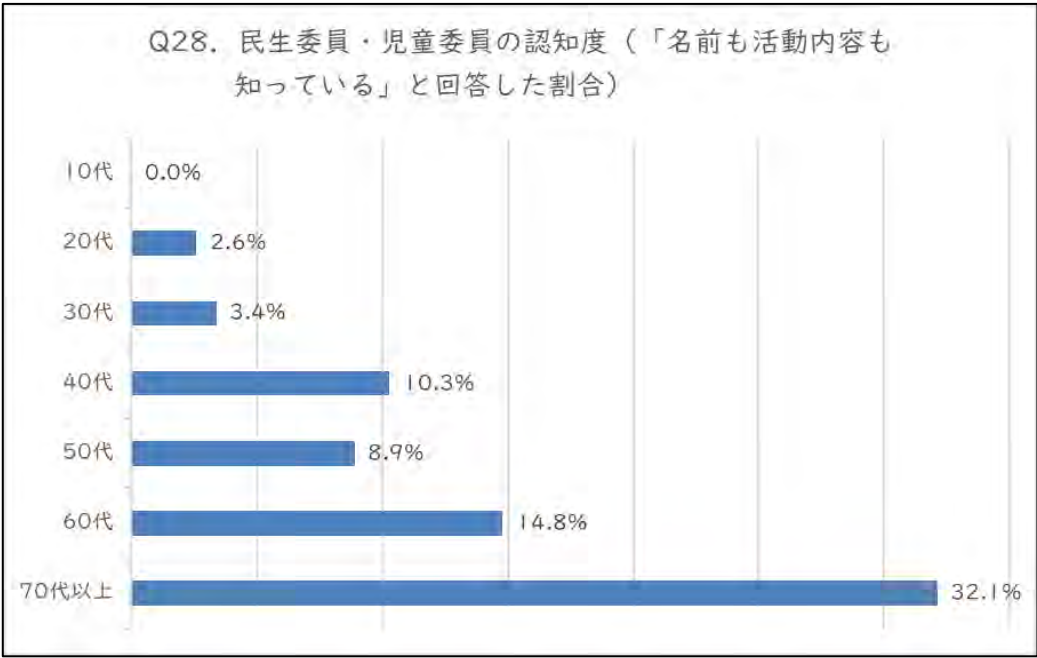


問28 あなたはお住まいの地域を担当する民生委員・児童委員を知っていますか。(1つだけ)

民生委員・児童委員については、「名前も活動内容も知らない」が56.5%と最も多く、次いで「名前は聞いたことはあるが活動内容は知らない」が30.4%、「名前も活動内容も知っている」が13.1%となっています。少なくとも名前を認知している人を含めても43.5%と半数に満たず、さらに認知度を高める必要があります。

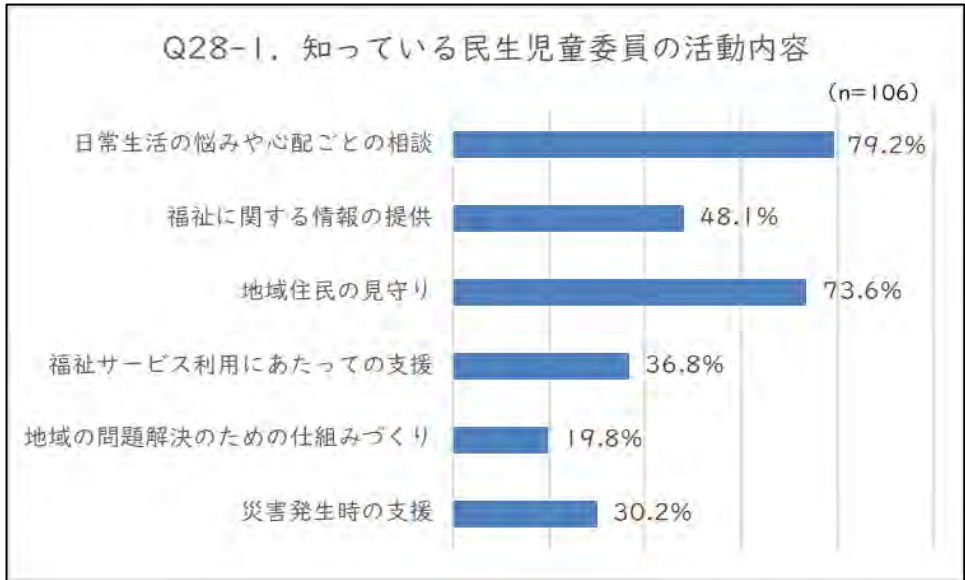


また、世代別に見ると、特に若い世代の認知度が低くなっています。



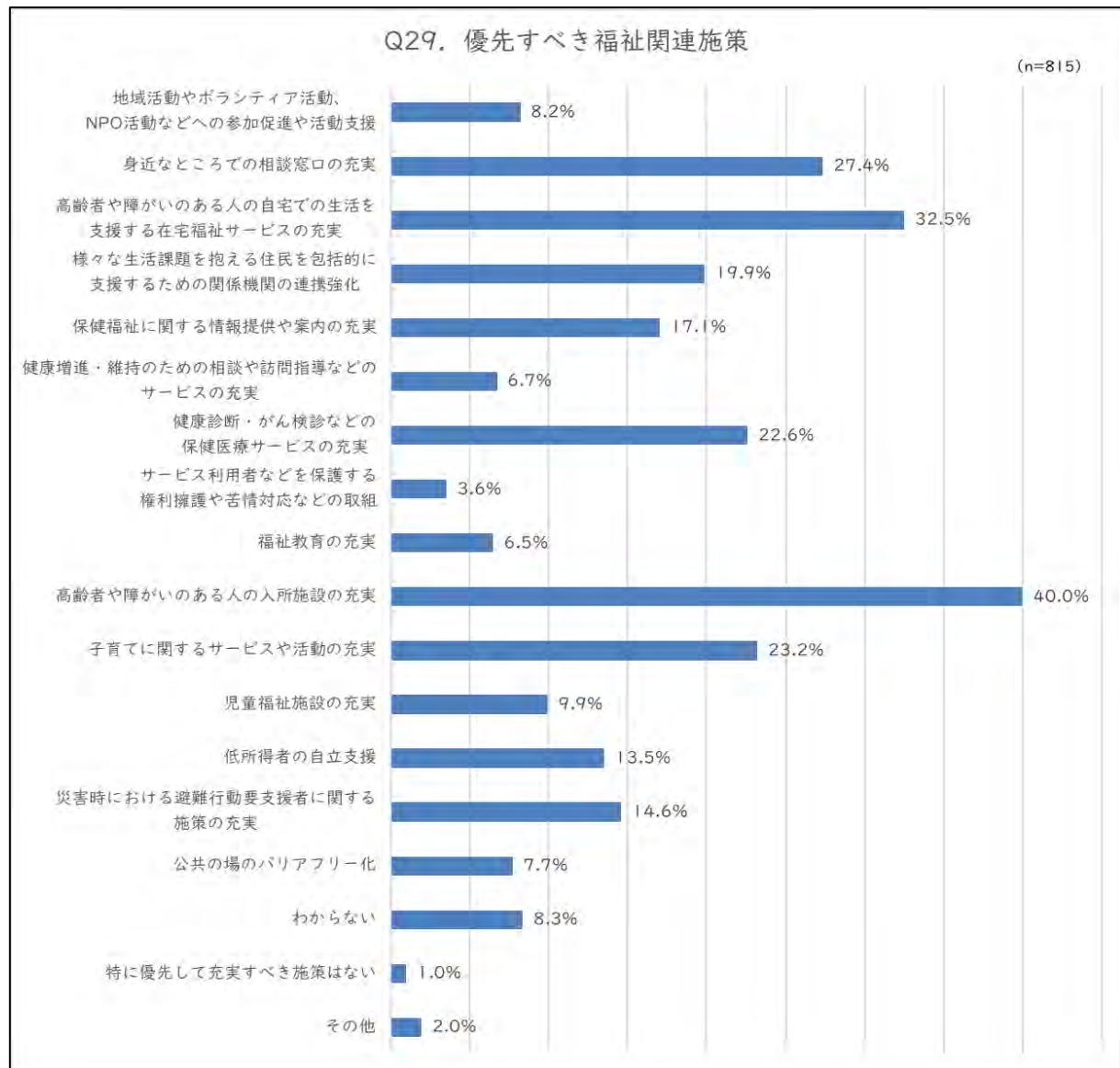
問28-1 【問28で「1」と回答された方にお聞きします】
民生委員・児童委員の活動内容について知っているものはありますか。（あてはまるものすべて）

民生委員・児童委員の活動内容について知っているものは、「日常生活の悩みや心配ごとの相談」が79.2%と最も多く、次いで「地域住民の見守り」が73.6%、「福祉に関する情報の提供」が48.1%となっています。



問29 今後、市は次のうち、どの福祉関連施策を優先して実施すべきだと思いますか。(あてはまるもの3つまで)

優先して実施すべき福祉関連施策は、「高齢者や障がいのある人の入所施設の充実」が40.0%と最も多く、次いで「高齢者や障がいのある人の自宅での生活を支援する在宅福祉サービスの充実」が32.5%、「身近なところでの相談窓口の充実」が27.4%、「子育てに関するサービスや活動の充実」が23.2%となっています。高齢者や障がいを持つ方への支援に関する施策が重要だと考える人が多い結果となりました。



(2) 関係団体調査の概要**① 調査の目的**

地域で活動する各種団体・組織等の方々から、地域福祉における課題や取組等を把握し、計画策定の資料を得ることを目的に実施した。

② 調査対象

高齢者関係2団体、障がい者関係4団体、こども・子育て関係4団体、その他12団体の計22団体

③ 調査期間

令和6年9月5日～令和6年9月20日

④ 回収状況

配付数	回収数	回収率
22 団体	16 団体	72.7%

⑤ 調査結果

- ・関係団体へ「団体等で抱える地域福祉における課題等」「課題等を解決するため、取り組んでいる事業等」について調査した結果です。

団体 No.	貴団体・組織等で抱える地域福祉課題	課題解決に向け取り組んでいる事項
1	・基本的な人権を尊重するため人権相談や啓発活動を行っているが、それだけでは末端の困っている市民まで浸透していない。	・人権相談の常設・特設相談会や人権 110 番ダイヤル相談など対応している。 ・子どもに関しては、「こどもの人権 SOS ミニレター」、「チャット人権相談」など、いろいろな手段で相談対応をしている。
2	・(1) 多職種連携（①病院-診療所の連携、②医療-介護の連携、③介護職間の連携） ・(2) 介護資源の不明瞭（主任ケアマネ問題） ・(3) 医療・介護関係職種の人材不足 ・(4) 在宅医療 ・(5) 感染対策（介護施設内でのクラスター対策等） ・(6) 認知症高齢者対策 ・(7) 独居高齢者への対応 ・(8) 緊急事態発生時における行政との連携・医療提供について	・(1) ①に関しては、コロナ禍で中止されていた公立病院主催の「地域医療を考える会」を今年から再開（10 月予定）。 ・(1) ②、③については、相馬郡在宅医療介護連携支援センター（まるっと）が主体となり取り組み中 ・(2) ～ (7) についても、まるっとが主体となり課題解決の取組を開始しているが、行政側との更なる連携強化が必要 ・(8) は、有事の際の情報共有の必要性をコロナ禍で感じた。行政側との連携を密にし、約束事の共有が必要（緊急連絡網の周知徹底含め）

第2章 相馬市の現状と課題

団体 No.	貴団体・組織等で抱える地域福祉課題	課題解決に向け取り組んでいる事項
3	【総務・地域福祉担当】 ・地域の課題や住民同士の交流、助け合い等に関して、住民と協議する場が少ない。 ・自治会への加入率が低下しており、地域のつながりが希薄化している。必要な地域情報が伝わらない。 ・災害対応時の協力体制の確保ができていない。 ・移動手段を持たない高齢者の支援が不十分 ・福祉教育が十分に行われていない。 ・マンパワー不足（認知症サポーターステッパアップ研修の開催等） ・民生児童委員、老人クラブ、身体障がい者福祉会など各種団体の担い手、会員数の減少 【生活サポート相談センター・障がい福祉担当】 ・家族（機能）の弱体化 ・地域基盤の衰弱。住民相互の支え合い機能の低下 ・住まいの保証人確保が困難 ・障がい者雇用が少ない。 ・仕事（できる内容）と居所と自分のしたい生活が、相馬市で成り立たない。 ・認知症高齢者の運転免許の失効、無車検等、手続きをしないまま運転している。 ・ひきこもりの人に対する初動対応の困難さ。他機関との連携、関係性構築の難しさ。 ・コロナ禍以降の経済的困窮、無年金での困窮、長期無就労、8050 問題、経済的困窮者や生活保護受給者の増加。 ・金銭管理ができずフードバンクに頼る方の増加 ・企業や団体との連携不足 ・障がい児の受入施設が少なく、どの施設も満員で待機者がいる。 ・精神疾患等を抱える女性単身者の相談増加 【在宅介護支援センター担当】 ・高齢者向けのお弁当配達業者がない。 ・介護保険利用者のゴミ出しなど、近所や地域で支え合える仕組みがない。 ・ショートステイを利用できる施設が少ない。在宅介護を続ける家族の介護疲れが懸念される。	【総務・地域福祉担当】 ・住民座談会の開催、住民主体の活動場への参加 ・広報紙やチラシ等による PR 活動 ・カーシェアリングや相乗り、社会福祉法人の公益的な取組による福祉車両の貸出し検討 ・行政、企業、地域の幅広い関係者、団体との協働が必要 【生活サポート相談センター・障がい福祉担当】 ・生活困窮者支援による保護に至らないよう個別支援の実施 【在宅介護支援センター担当】 ・西部地区の「ちょこっとてつだう会」（市全体でできると良い） 【デイサービス担当】 ・地域のつながりの見直し

団体 No.	貴団体・組織等で抱える地域福祉課題	課題解決に向け取り組んでいる事項
	【デイサービス担当】 ・高齢一人暮らしや認知症、精神障がい者、生活保護受給など、日常生活上でサポートを必要とする方が増えている。 ・介護サービス利用時間外の一人暮らしや高齢者世帯にリスクがある。 ・他事業所や他職種との連携の仕方、協議の場が少ない。 ・介護職員不足、高齢化により、通所介護の存続が不安。人材不足が課題。 ・施設不足と待機者問題（希望利用日に空きがない） ・買物に苦慮している人の増加 ・ケアマネ任せになっている。 ・増加する独居の認知症高齢者に対する各事業所の支援のあり方 ・新型コロナの影響で現在も外出を自粛している人がいる。 ・見守りが必要な人が増加している一方で、公的サービスが追い付いていない。	
4	・高齢化や生活困窮、医療的ケアニーズの増加、無理解からくる社会的排除とも相まって障害福祉制度にとどまらない複合的な課題が山積している。 ・次々に国から降りてくる新制度や法改正に追われ、複雑に専門分化する制度への対応で一切余裕がなく、同じ障害福祉分野でも別事業のことは分からない状況となっており、地域で生きづらさを抱える障がい者の支援から逆行しているように思われる。	・個別の事案に対し、他分野との連携を進めながら解決に向け取り組んでいる。
5	・不登校、発達に課題がある家庭への関わりが困難	・子育て世帯に関わりを持とうとしているが、家庭に入って欲しくないと思っている方が増えている。関わりが難しく、見守りを続け関係機関と連携しながら進めている。
6	・障がい者虐待事案の増加 ・障がい福祉事業所のスタッフ不足 ・障がい者の移動支援がなく、外出・余暇支援も地域にない ・医療的ケア児のショートステイ先が身近な地域にない	・虐待案件の対応を市と連携で実施 ・事業所スタッフ向けの研修会を実施し資質向上を図る ・移動支援について市、事業所、自立支援協議会で協議している ・医療的ケア児のショートステイ先については現段階で難しい状況 ※地域の市民活動が少ない印象がある。市民自主活動を増やすような促しがあると良い。 ※移住者を受け入れる環境整備をしないと人口減少の歯止めとなるのではないかな。

第2章 相馬市の現状と課題

団体 No.	貴団体・組織等で抱える地域福祉課題	課題解決に向け取り組んでいる事項
7	・認知症等により見守り・支援の必要な人の増加への対応 ・身寄りのない方、人と人とのつながりの希薄化への対応 ・一世帯において抱える複数の問題への対応 ・免許証返納後の移動手段 ・疾患を抱える世帯の孤独・孤立を防ぐための対応	・食事サービス事業（安否確認及び健康保持） ・オレンジカフェ ・骨太けんこう体操 ・認知症サポーター養成講座 ・地域ケア会議の開催
8	・高齢者に限定することなく「地域づくり」、「健康づくり」に資する取組や世代間交流、地域共生社会の実現、地域の担い手など連合会の組織力を生かし、行政の補完的役割を果たすため活動しているが、若年高齢者の入会が減少しており、会員の高齢化による組織活動の継続が困難となっており、単位クラブ及び会員減少につながっている。会員減少防止が最大の課題。	・各单位クラブ定期役員会開催の指導徹底 ・老人クラブ会員増強運動の強化 ・高齢者と多世代との交流事業 ・福島県老人クラブ連合会担い手養成事業「老人クラブリーダーズカレッジ」への派遣などでの人材育成と活性化
9	・高齢者で車のない人の買物、通院が困難（タクシー代で生活がより苦しくなる。）	・特になし
10	・近隣に身内が不在の独居老人の増加	・施設併設居宅介護支援事業所の介護支援専門員が、緊急の場合は休日等に関係なく動く。併設施設は全面的バックアップ体制で対応する。
11	・看護職員や介護職員など人材の確保 ・職員の処遇改善や電子カルテ導入をはじめとする生産性向上等にかかる費用不足	・特になし
12	・障がい者共同生活援助事業所（グループホーム）の入居者が高齢化してきているが、保証人や身元引受人がいない方もおり、将来的に介護保険に移行するとき等に困る。 ・若い方でも保証人等がいないと民間のアパート等に移ることができず自立することができない。	・後見人制度の利用等
13	・障がい者の支援事業所を地域に知ってもらいノーマライゼーションの社会を実現したい。（障がいのある人にとって生活しやすい環境でないし、生活、就労、余暇の福祉資源を増やす必要がある。）	・マルシェを開催し、地域の人に知ってもらう。 ・プロのミュージシャンを招き「みんなのしあわせ音楽会」を開き、障がい者と市民の交流の場を設けている。

団体 No.	貴団体・組織等で抱える地域福祉課題	課題解決に向け取り組んでいる事項
14	・少子高齢化・核家族の中で家庭の教育力の低下、また地域社会の繋がりや支え合いの希薄化で地域社会の教育力の低下は否めない。同世代だけで異世代交流がなく見識が少ない。 ・全国的に福祉事業のヘルパーの人材不足が問題視されているが、当アトリエでも最近では求人を出しても以前ほどの反応が少ない。	・核家族が多くなっているため、子供も高齢者も異世代交流の場が必要と思う。当アトリエでは、未就学児から100歳の高齢者の方まで幅広い年齢層が親子教室、放課後児童クラブ、絵画造形教室、デイサービスで集い、子供達には優しい思いやりの心が芽生え、社会性が育ち、多様な価値観に触れる機会となり、高齢者は昔を思い出し関わり合う喜びなど、大きな成果をあげている。 ・合宿や絵画造形教室、親子教室、放課後児童クラブの活動の中で、高齢者の方とふれあう時間をセッティングしている。 ※国全体で解決策を考えるには、学校教育のカリキュラムや課外活動、ボランティア活動などで高齢者とふれあう場を設定し、各世代が分断されないシステムをつくる。
15	・保育士等の人材不足	・現在のところ、取り組む術がない
16	・子どもの減少	・0歳児（生後2ヶ月）～就学前までの保育 ・防災意識を高め避難訓練の強化 ・防災グッズや非常食を備蓄し、園児の安全を確保 ・地域行事への積極的な参加で交流を図る

(3) 統計資料・アンケート調査等からみる地域の傾向と課題

① 高齢者や障がいのある人への施策や取組

全体の傾向として、現在の地域に住み続けたいと思う人が多くいる中で、現状では高齢者や障がいのある人の多くが満足しているものではなく、更なる施策や取組の充実が多く求められています。特に交通や買い物の利便性、福祉サービスの情報入手や利用のしやすさなどの様々な場面において、高齢者や障がいのある人への配慮が足りていないと感じる人が多い傾向にあります。高齢者や障がいのある人が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、暮らしやすさを向上させる取組や工夫が必要です。

② 子育て世代への支援

少子高齢化が進む中、特に若い世代から、子育てに関する支援や取組の強化を求める声が多い傾向にあります。子育て世代への支援を通して、若い世代の地域への定着を図る必要があります。

③ 地域活動やボランティア活動の参加に向けた働きかけ

地域活動やボランティア活動への参加割合が全体的に低い傾向にあります。支援を充実させるため、人員の確保や積極的な情報発信が必要です。

④ 防犯・防災への取組

安心した暮らしを守るため、防犯・防災への取組の充実が多く求められています。特に防災面については、東日本大震災や度重なる台風被害等を経験し、日頃から災害に対する不安を抱える人が多いため、施策や取組により、住民の安全を守ることが必要です。

⑤ 地域における助け合い、相互扶助への取組

地域との交流が希薄化しており、地域住民同士で助け合い、支え合う関係が構築できていないと感じている人が多い傾向にあります。地域への関心や繋がりが薄れてしまうと、地域活動の担い手不足にも繋がります。地域への関心を高め、地域住民同士で助け合うことのできる相互扶助の仕組みづくりを推進していく必要があります。